学校法人　関西大学　様

ODECS システム運用編

学生向け取扱説明書

平成 20 年 10 月 23 日　1.1 版

改訂履歴

版数	章番号	区分	改訂内容	改定日
1.0			初版	2008/09/30
1.1	5.2.	変更	SSL サーバ証明書導入による操作手順の変更	2008/10/23

目次

1. 旧 ODEC システムと新 ODECS システムとの違い 1

2. 新機能について 3

2.1. コンピュータの起動・終了 3

2.2. プリント管理 3

2.3. 外部からの個人ファイル利用 3

2.4. リモートデスクトップ 4

2.5. パスワード変更 4

3. コンピュータの起動・終了手順 5

3.1. パソコンの各部名称 6

3.2. パソコンの電源確認方法 7

3.3. パソコンの電源の入れ方 8

3.4. Windows の利用 10

3.5. Linux の利用 17

3.6. ドライブの割り当て 25

4. プリント枚数の確認手順 31

4.1. プリント枚数の確認 32

5. SSLVPN 接続手順 35

5.1. OD 教室トップページへアクセス 36

5.2. SSLVPN 接続 37

5.3. ファイルサーバの利用 41

5.4. SSLVPN 接続の終了 46

6. リモートデスクトップ利用手順 48

6.1. リモートディスクトップ接続 49

6.2. 教室選択 51

6.3. 利用パソコン選択 52

6.4. リモートディスクトップの開始と終了 53

7. パスワード変更手順 57

7.1. パスワード変更 57

学生向け取扱説明書

1. 旧 ODEC システムと新 ODECS システムとの違い

旧 ODEC システムと新 ODECS システムとの相違点の一覧を記述します。

項目	旧システム （ODEC システム）	新システム （ODECS システム）	備考
OS（Windows）	WindowsXP Pro SP2	WindowsVista Buisiness	
OS(Linux)	Fedora Core4	Fedora Core8	
OS の切替	VMware	VMware	
DVD ドライブ	先生用 PC、表示操作用 PC には有り 学生用 PC には無し	あり	
USB 端子の位置	モニタ横、PC 筐体前面、PC 筐体背面	PC 筐体前面、PC 筐体背面	新システムでは、3 箇所に計7つの空きポートが有ります
ファイルサーバの個人領域容量	100MB（学生） 200MB（先生）	200MB（学生） 400MB（先生）	新システムでは、学生の個人領域の容量を最大 200MB、先生では最大 400MB の容量を確保しています。
M ドライブ、N ドライブの自動消去	有り	有り	教材を保存しておく M ドライブと学生が提出する課題等を保存しておくNドライブは毎週日曜日に自動的にファイルを消去します

項目	旧システム （ODEC システム）	新システム （ODECS システム）	備考
印刷枚数の上限管理	有り	有り	新システムでは、学生の印刷枚数の上限管理を行っています。現状の設定は 1 ヶ月にモノクロ 180 枚、カラー20 枚の計 200 枚となっています。なお、先生は無制限となっています。
VPN 接続	500 同時ユーザ接続	100 同時ユーザ接続（運用状況に応じて拡張予定。）	新システムでは、100 同時ユーザ接続を有し、OD 教室外からファイルサーバの個人領域へのアクセス、リモートデスクトップ機能を提供します。

2. 新機能について

ODECS システムで新たに追加･変更された機能について説明します。
新機能・変更部分は以下の通りです。

2.1. コンピュータの起動・終了

ODECS システムでは、学生用パソコンの WindowsOS が Windows Vista Bussiness になります。
Linux OS は、Fedora Core 8 になります。
先生用パソコンおよび学生用パソコンは、Windows マシンとして構成されています。
Linux を利用する際には、VMware WorkStation を利用したエミュレート環境上で Fedora Core 8 を起動します。
詳細な利用方法は「**3. コンピュータの起動･終了手順**」に記述しています。

2.2. プリント管理

ODEC システムでは、各 OD 教室利用者のプリント管理を行っています。
プリンタ管理を利用することで、プリンタ利用者に対して 1 ヵ月間にプリントできる枚数を制限・把握することができます。
学生は自分の印刷枚数の確認を行うことができます。
詳細な利用方法は「**4. プリント枚数の確認手順**」に記述しています。

2.3. 外部からの個人ファイル利用

ODEC システムでは SSLVPN（暗号化通信）装置を利用することで、自宅や研究室などの OD 教室以外から ODEC システムの個人ファイル利用を行ってきました。
ODECS システムでも同じ機能を提供しています。
SSLVPN 接続は、ODECS システムを利用するすべての方が利用可能です。
ODECS システムでは、暗号化された通信状態で以下のサービスを提供しています。

- ODECS システムの個人ファイルへのアクセス（読み・書き・実行）
- リモートデスクトップ（後述）

SSLVPN 接続に関する詳細な利用方法は、「**5. SSLVPN 接続手順**」に記述しています。

2.4.　リモートデスクトップ

リモートデスクトップとは、WindowsVista に搭載されているネットワーク経由でパソコン利用を行うための機能です。

この機能を利用すると、WEB ブラウザ上に遠隔地のパソコンの画面を表示させその場にそのパソコンがあるかのように操作を行うことが可能になります。

ODECS システムのパソコン又は、リモートアクセス専用機にリモートデスクトップを行うことで、本来 OD 教室でなければ利用できないアプリケーションやファイルを利用することが可能になります。

リモートデスクトップは、ODECS システムを利用するすべての方が利用可能です。

リモートデスクトップに関する詳細な利用方法は、「**6.　リモートデスクトップ手順**」に記述しています。

2.5.　パスワード変更

ODECS システムで、パスワード変更を行う場合、WEB ページからの作業となります。

学生は本人のパスワード変更のみ行えます。

詳細な利用方法は「**7.　パスワード変更手順**」に記述しています。

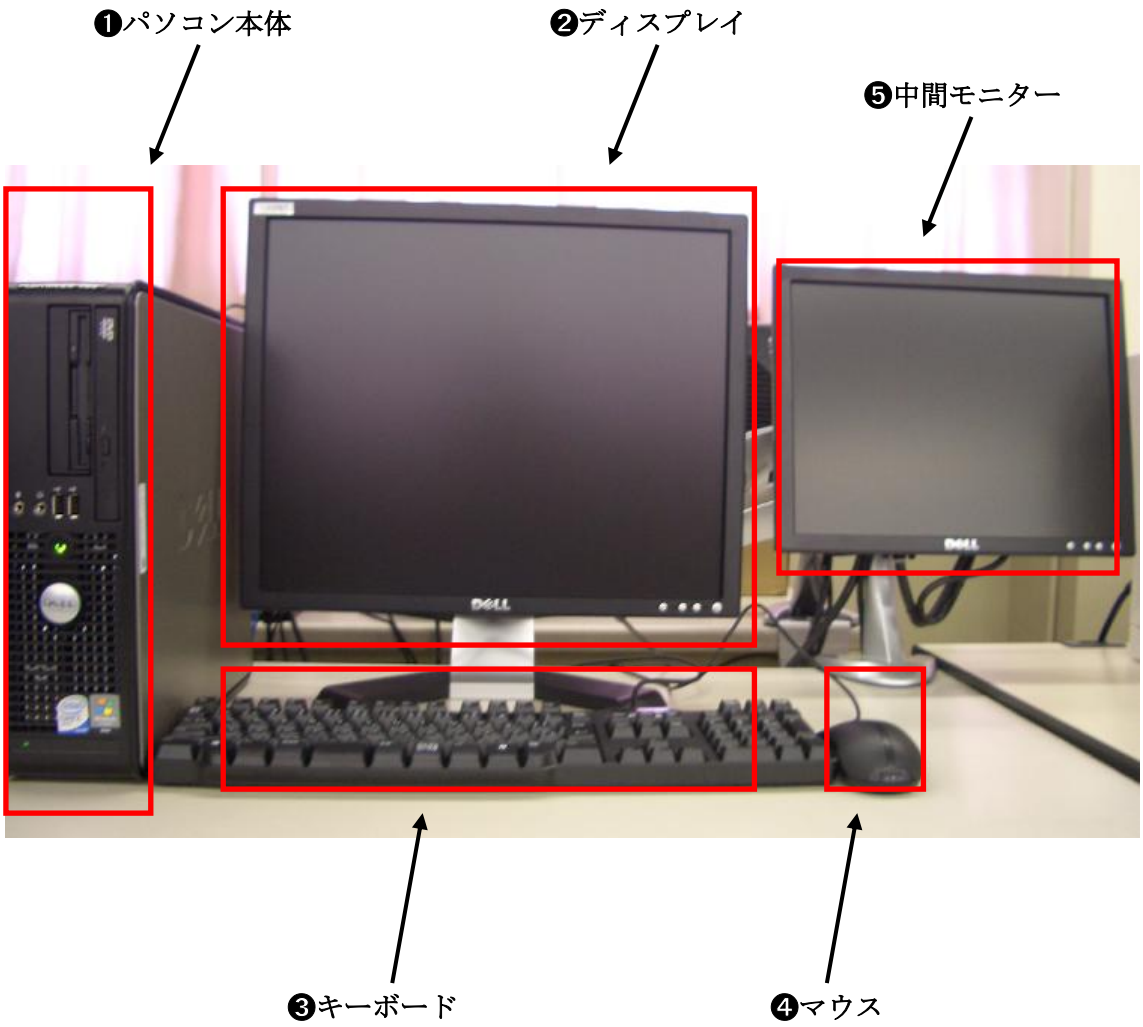
3. コンピュータの起動・終了手順

ODECS システムで扱うパソコンについての基本的な説明および簡単な操作方法について記述します。

本章では、以下の項目について説明します。

3.1 パソコンの各部名称
3.2 パソコンの電源確認方法
3.3 パソコンの電源の入れ方
3.4 Windows の利用
3.5 Linux の利用
3.6 ドライブの割り当て

3.1.　パソコンの各部名称

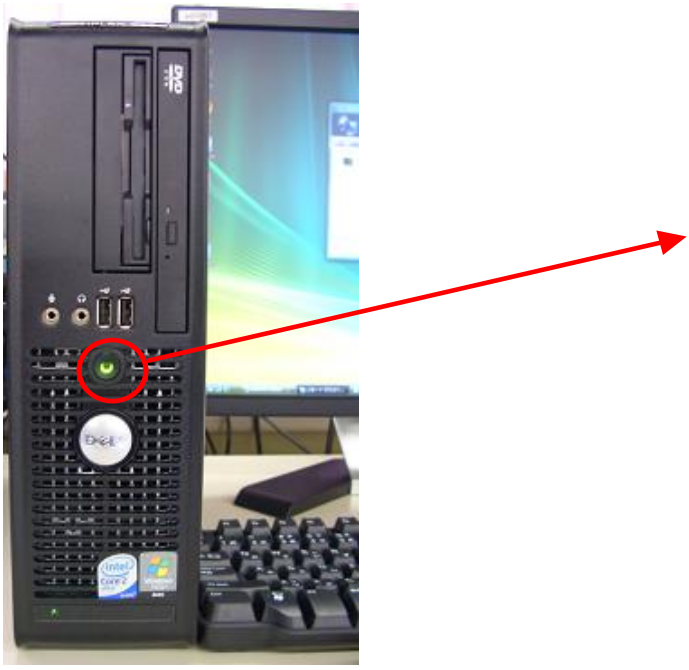


デル社製 OptiPlex 755 スモールフォームファクター

CPU：インテル Core 2 Duo プロセッサー E6850 3GHz
メモリ：2GB
HDD：160GB SATA
FDD：3.5 インチ 2 モード
光学ドライブ：DVD-ROM
モニタ：19 インチ 液晶ディスプレイ
ネットワーク：Gigabit Ethrnet

3.2. パソコンの電源確認方法

パソコンの電源状態の見分け方について説明します。



パソコンの電源ボタン

状態	説明	図
ON	パソコン本体中段にあります、電源ボタンが緑色に点灯していれば電源が入っています。	
スタンバイ	その電源が緑色に点滅していればスタンバイ中であり、誰かがログオン※1している可能性があります。 スタンバイとは節電状態のことです。 スタンバイ状態からの復帰方法は、電源ボタンを押すことで復帰できます。	
OFF	消えていれば電源が入っていません。	

※1 コンピュータシステムの資源にアクセス可能な状態になること

3.3. パソコンの電源の入れ方

3.3.1. 電源の投入

PC 前面の中段にあります電源ボタンを押します。

「カチッ」と音がするか、少し手ごたえがありましたらボタンを離します。

離した後は電源ボタンが緑色に光ります。

3.3.2. ディスプレイの確認

次にディスプレイの電源が入っているかを確認します。

ディスプレイの電源ボタン

3.3.3. ディスプレイの電源　見分け方

状態	説明	図
ON	パソコン本体の電源が入っていて、ディスプレイの電源が入っていれば、緑色に光ります。	
待機状態	パソコン本体の電源が入っていなくて、ディスプレイの電源が入っている状態のときは、オレンジ色に光ります。	
OFF	ディスプレイの電源が入っていないときは光りません。	

※注意※

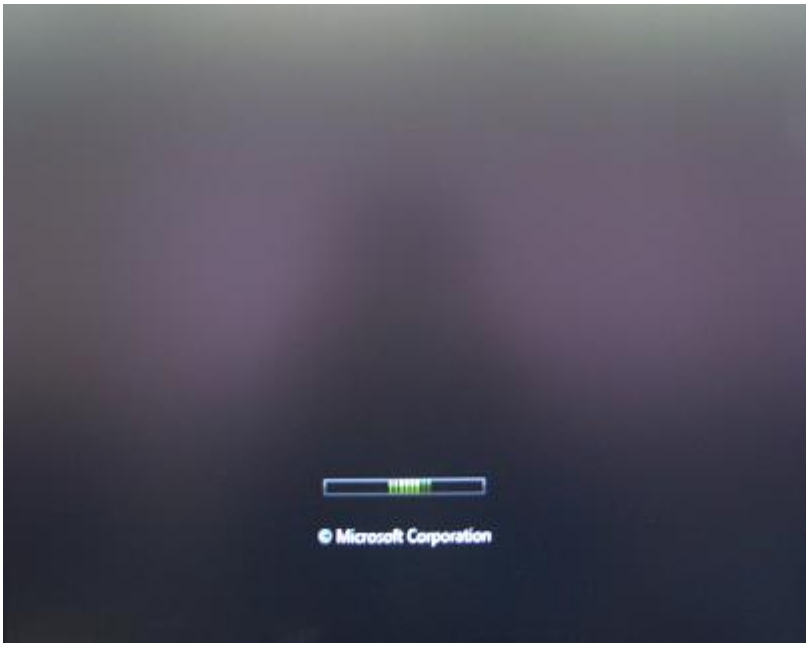
ODECS システムでは、電源連動タップによってパソコンとディスプレイの電源を連動させています。したがって、ディスプレイの電源スイッチを操作する必要はありません。

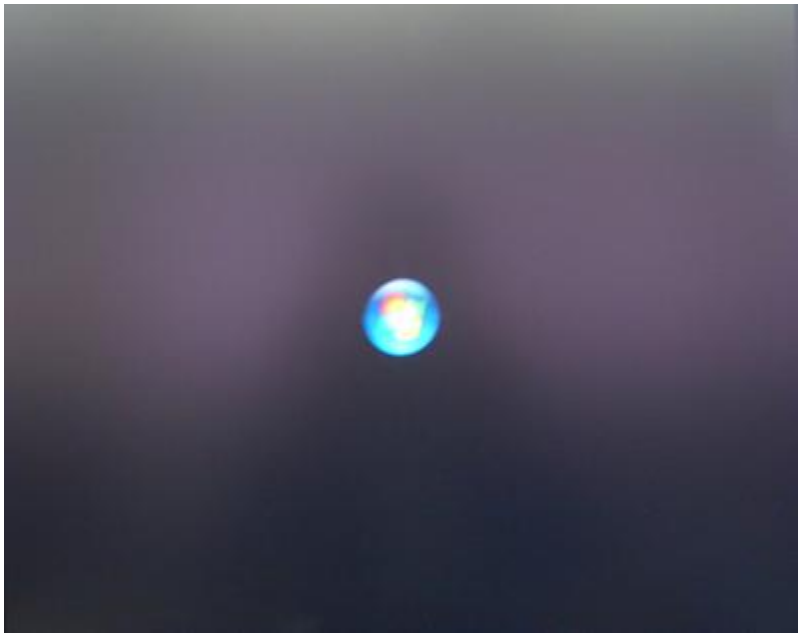
3.4. Windows の利用

3.4.1. Windows の起動

電源が入ると、Windows が起動します。

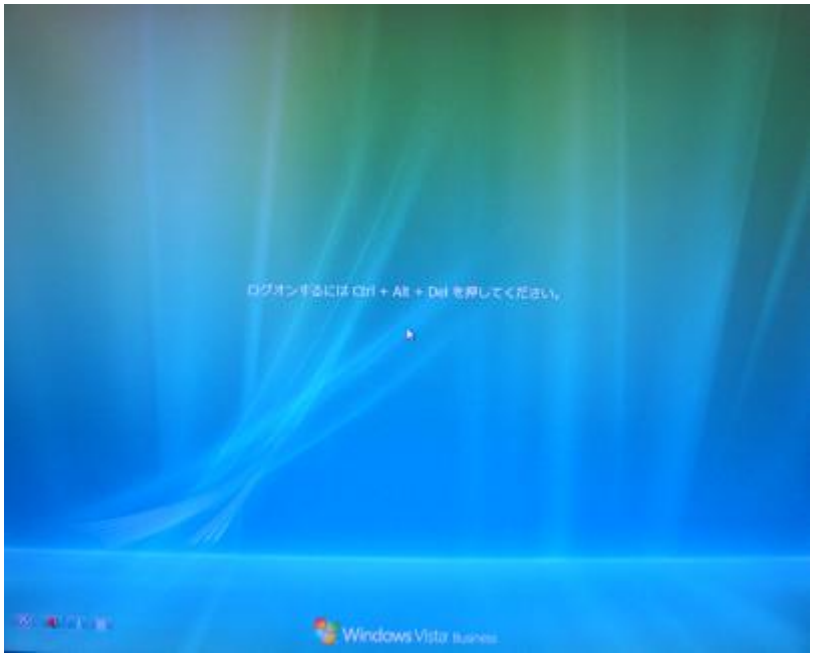
Windows のロゴが現れるので少々お待ちください。



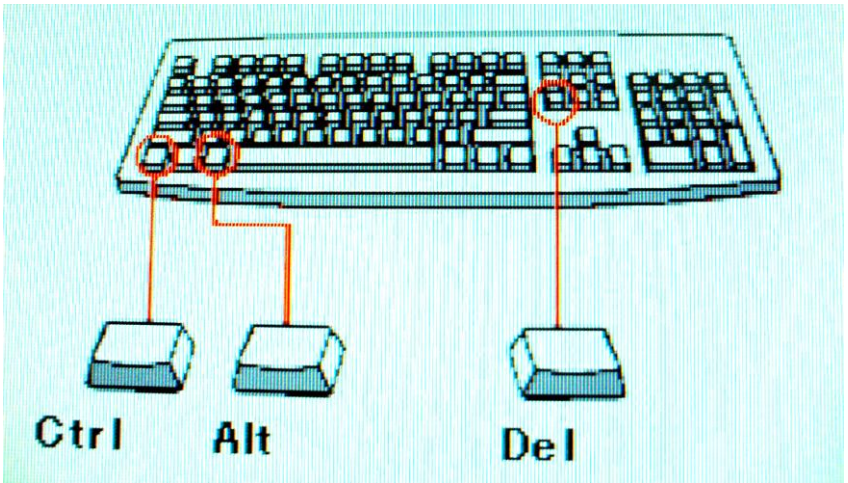


3.4.2. Windows の起動完了

起動が終了すると以下の画面が表示されます。



下図を参考に「Ctrl」キーと「Alt」キーと「Del」キーを同時に押してください。



3.4.3. Windows のログオン画面の表示

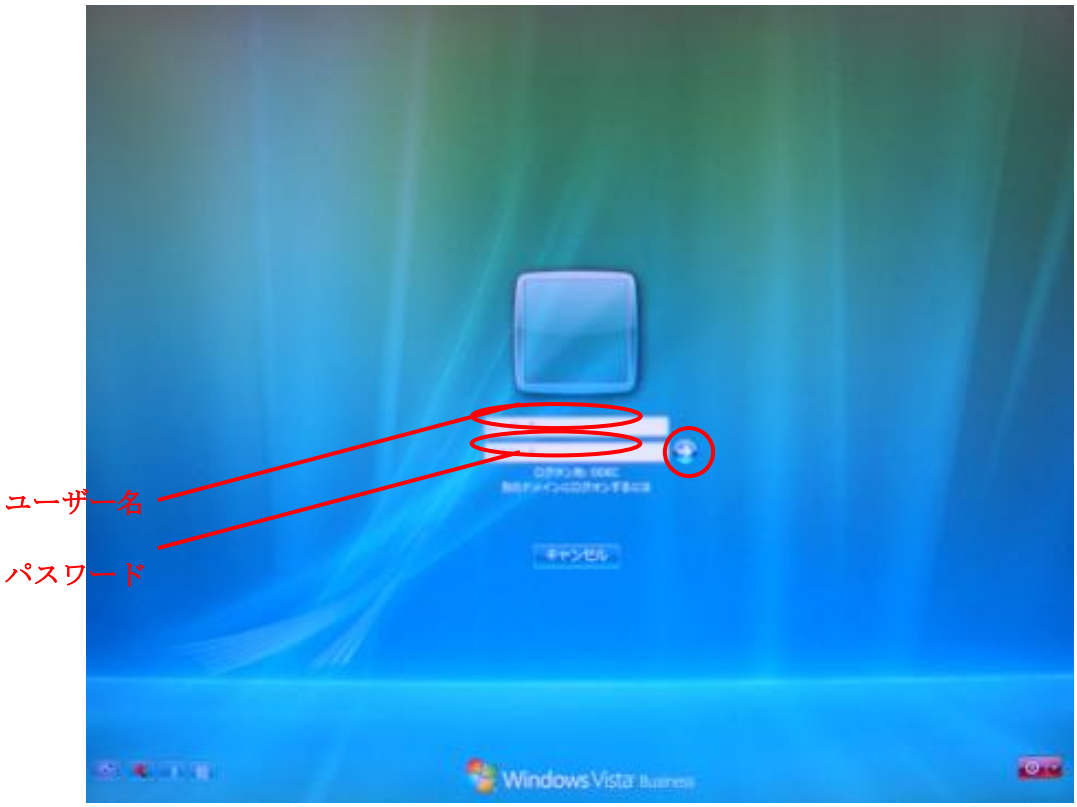
この画面を Windows のログオン画面といいます。

① Windows を利用するために、以下に従ってログオンを行います。

(1) 利用者のユーザ名（ユーザ ID）を入力します。

(2) パスワードを入力します。

(3) 「 」ボタンをクリックしてください。



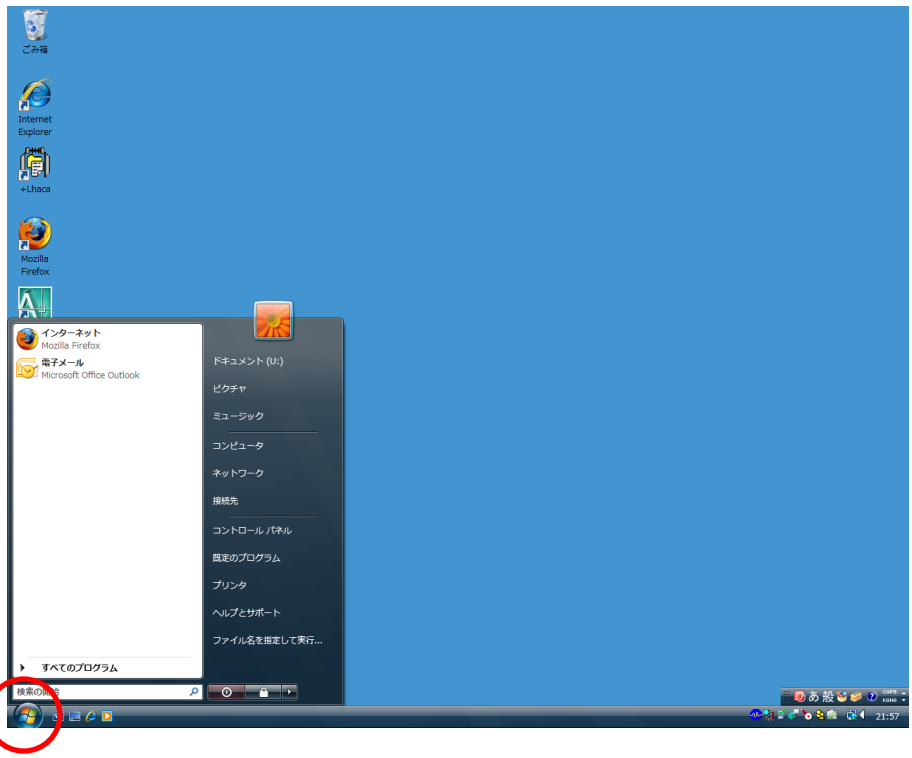
② プログラムが立ち上がり、デスクトップが表示されます。
マウスのカーソルが「 」から「 」に変わればログオン完了です。

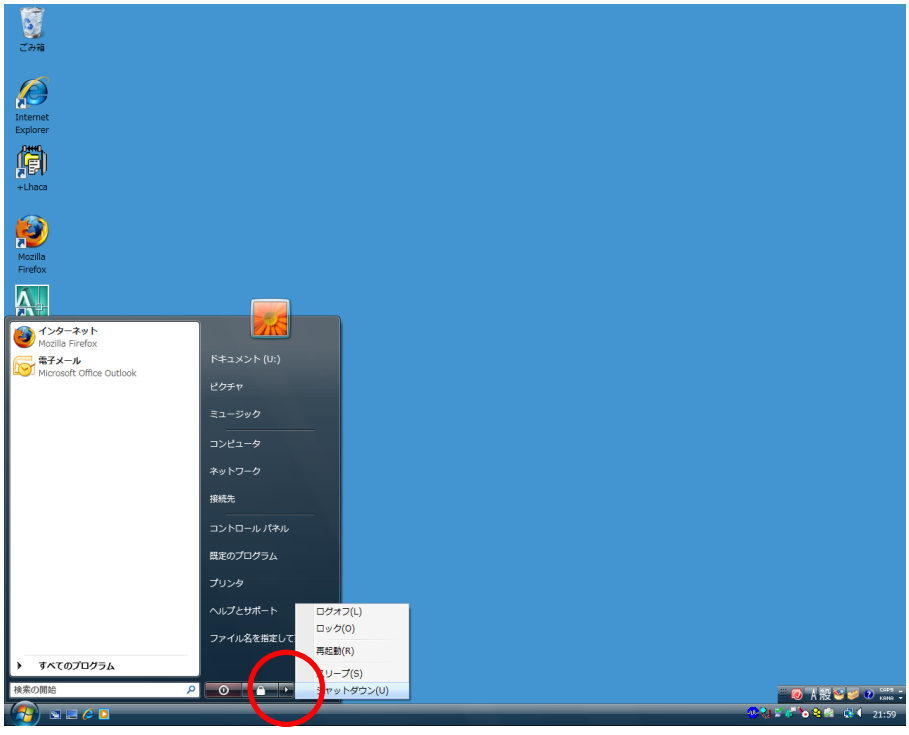
3.4.4. Windows の終了方法

Windows の作業が終了しましたら、パソコンの電源を切ります。
パソコンの電源を切る場合は、シャットダウンを行う必要があります。
シャットダウンとは、Windows 上のすべてのプログラムを適正な順序で終了させて電源を切ってもデータが失われないような状態にする作業のことです。

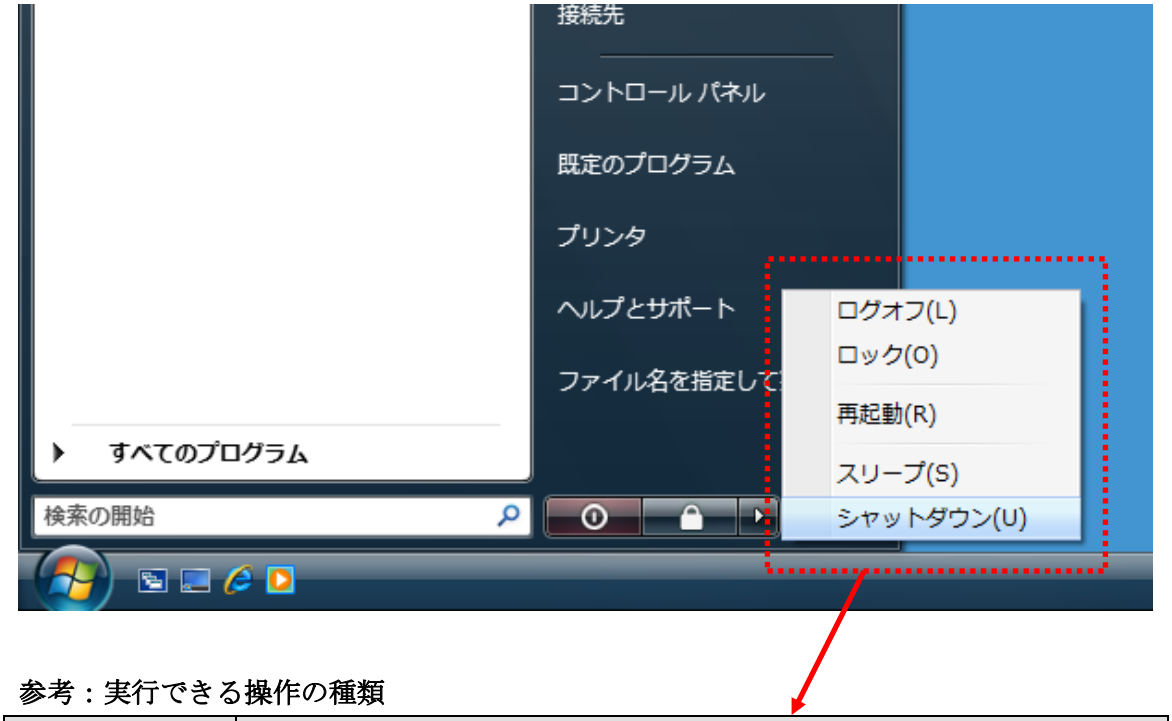
3.4.5. シャットダウン

① 画面左下にあります「 」ボタンを左クリックしてください。
以下のメニューが表示されます。


ごみ箱
Internet Explorer
+Lhaca
Mozilla Firefox
インターネット
Mozilla Firefox
電子メール
Microsoft Office Outlook
すべてのプログラム
検索の開始
ドキュメント (U:)
ピクチャ
ミュージック
コンピュータ
ネットワーク
接続先
コントロール パネル
既定のプログラム
プリンタ
ヘルプとサポート
ファイル名を指定して実行...
21:57


ごみ箱
Internet Explorer
+Lhaca
Mozilla Firefox
インターネット
Mozilla Firefox
電子メール
Microsoft Office Outlook
すべてのプログラム
検索の開始
ドキュメント (U:)
ピクチャ
ミュージック
コンピュータ
ネットワーク
接続先
コントロール パネル
既定のプログラム
プリンタ
ヘルプとサポート
ログオフ(L)
ロック(O)
再起動(R)
スリープ(S)
シャットダウン(U)
21:59

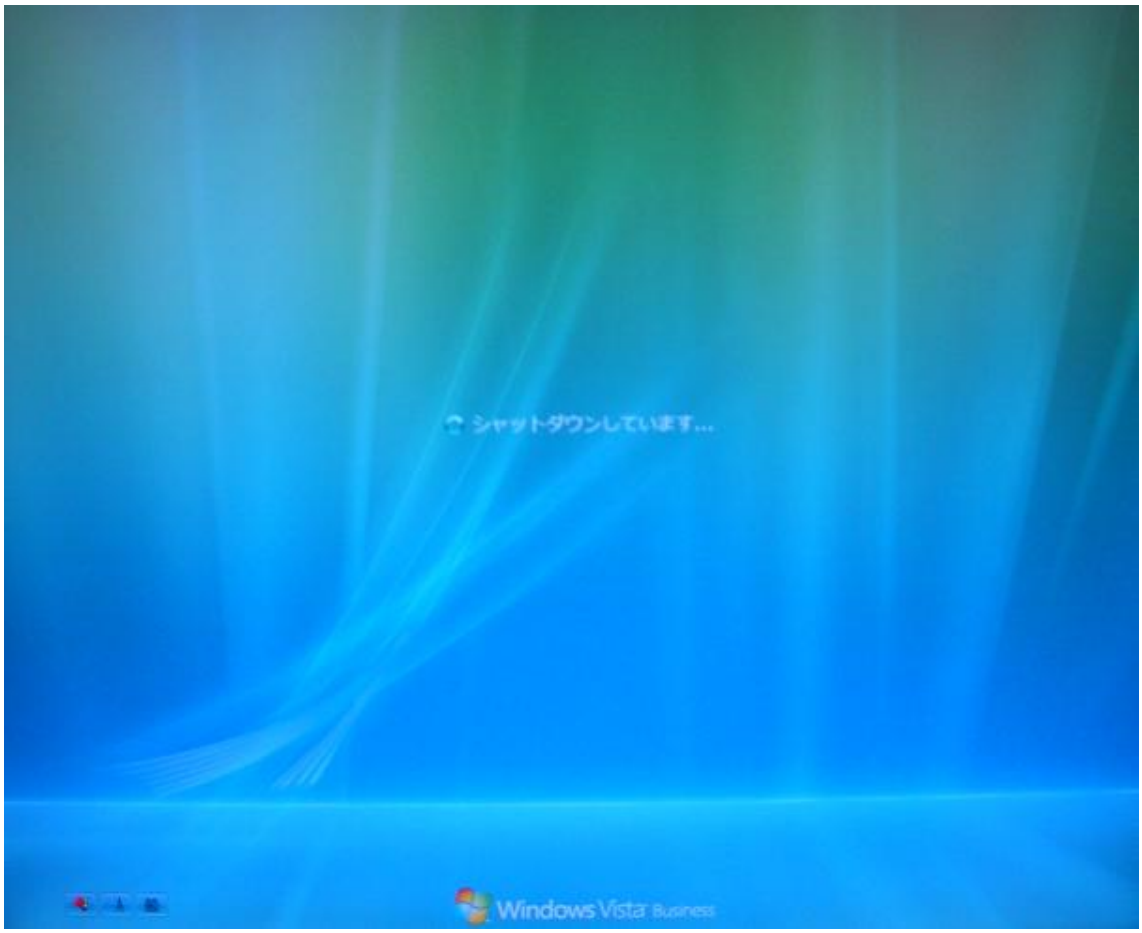
② そこで出てくる画面下段の「シャットダウン」をクリックしてください。



参考：実行できる操作の種類

状態	説明
ログオフ	パソコンの電源は切らずに、ユーザの作業を終了することができます。
ロック	画面をロックします。
再起動	コンピュータに電源を入れた状態に戻します。
スリープ	ユーザの作業状態はそのままに、節電状態になります。 作業に戻るときは電源ボタンを押してください。 「**パソコンの電源　見分け方**」を参照してください。
シャットダウン	パソコンの電源を切り、ユーザの作業を終了することができます。

③　すぐにシャットダウンが実行されます。
　　シャットダウンにはしばらく時間がかかります。
　　その間は、「お待ちください...」ウィンドウが現れるので少々お待ちください。



パソコン本体の電源が切れれば、シャットダウンが終了です。
本体の電源が消えていることを確認してください。
電源が消えているかどうかの確認方法は「**3.2.　パソコンの電源確認方法**」を参照ください。

以上で、パソコンの電源を安全に切ることができました。

3.5. Linux の利用

3.5.1. Linux の利用

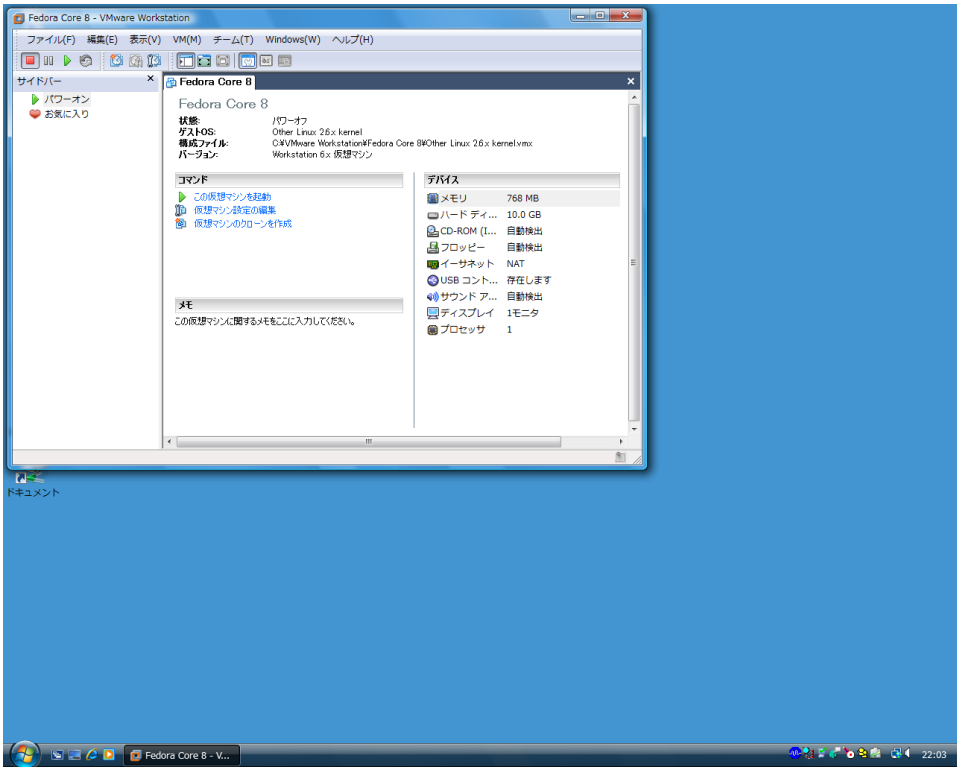
学生用パソコンおよび先生用パソコンには、Linux 環境として Fedora Core 8 がインストールされています。

Fedora Core 8 は、VMware.Inc 社の VMware Workstation を利用して Windows 上で仮想マシンとして起動します。

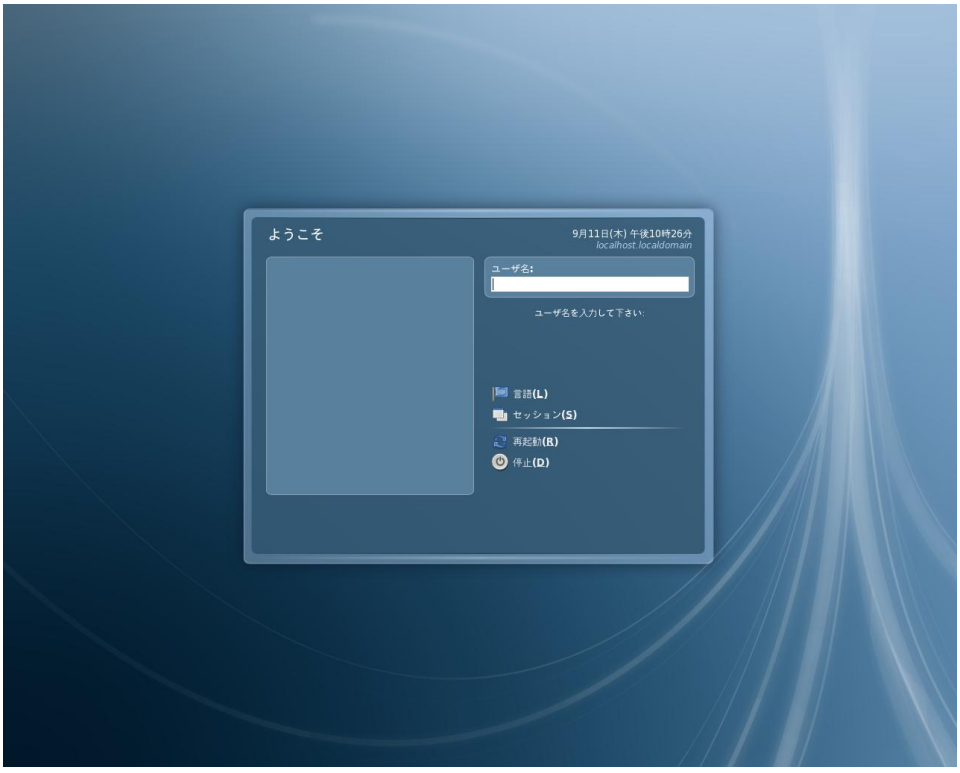
① Windows を起動します。
手順は「5.1. Windows の起動」参照。

② VMware を起動します。
画面左下にある VMware Workstation というアイコンをダブルクリックしてください。

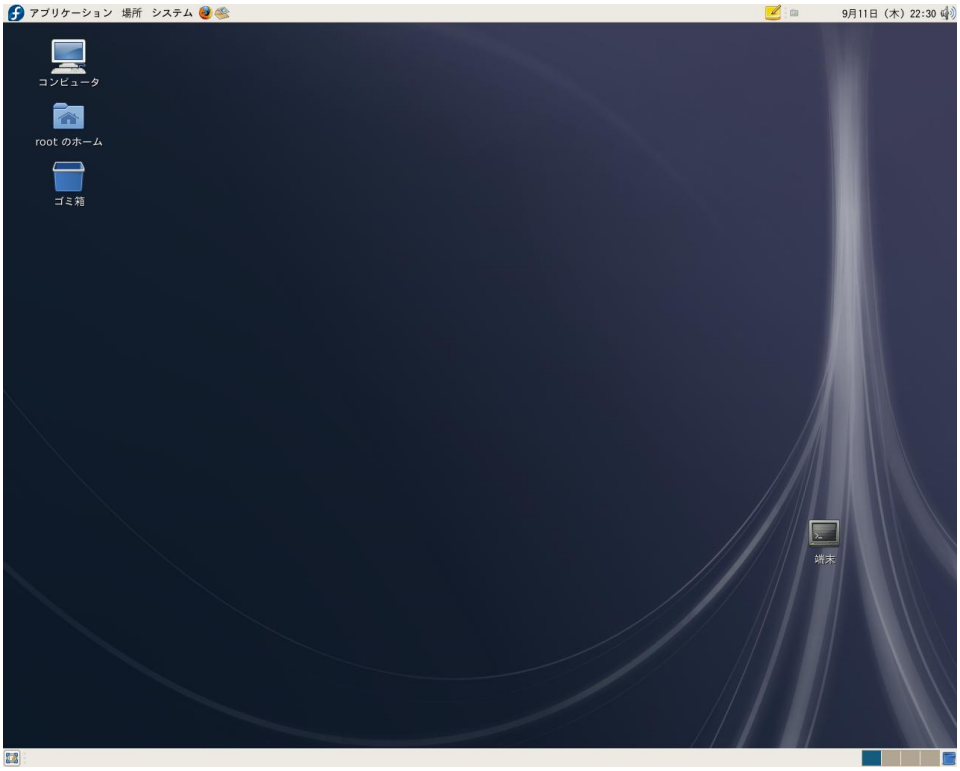
③　VMware が起動し、Fedora Core 8 がスタンバイ状態から回復します。



④　スタンバイ状態からの回復後、全画面表示になり Fedora Core 8 へのログイン画面が表示されます。



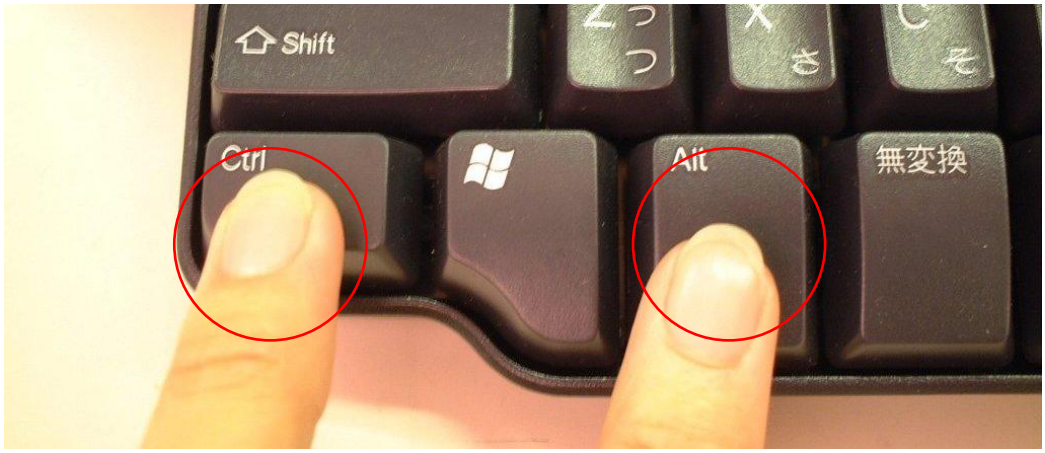
⑤　ログイン画面で利用者のユーザ名、パスワードを入力すると Fedora Core 8 が利用可能になります。



3.5.2.　Windows へ戻る方法

Fedora Core 8 を起動すると、すべてのキーボード・マウス入力は Fedora Core 8 への入力とみなされます。
この状態を解除する方法は以下の通りです。

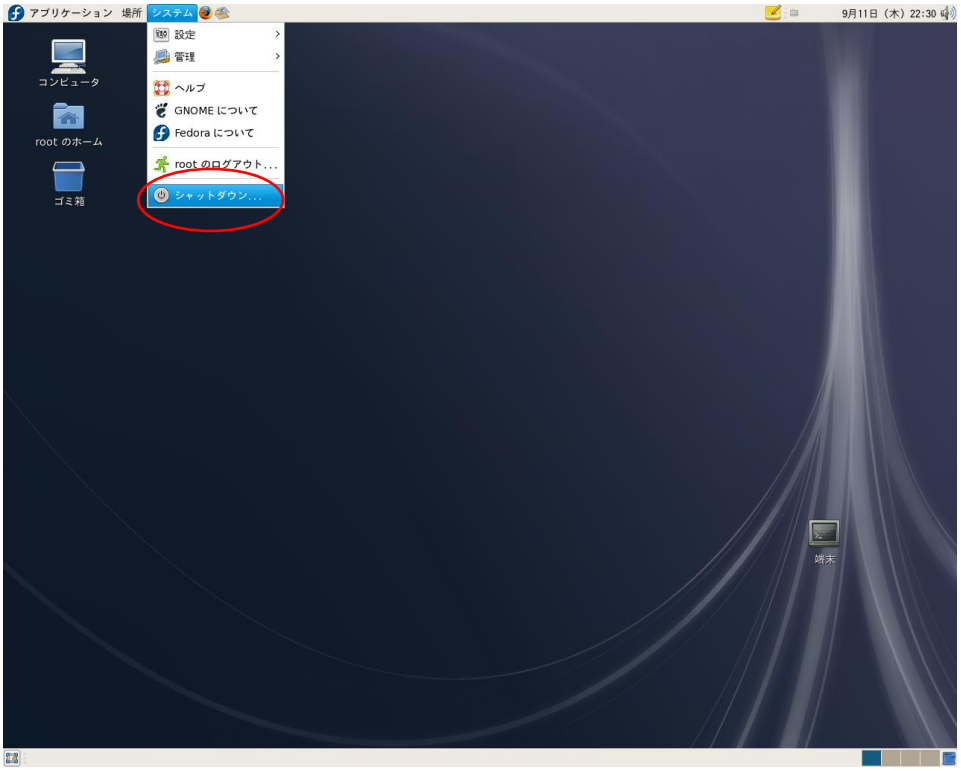
①　CTRL キーと ALT キーを同時に押します。



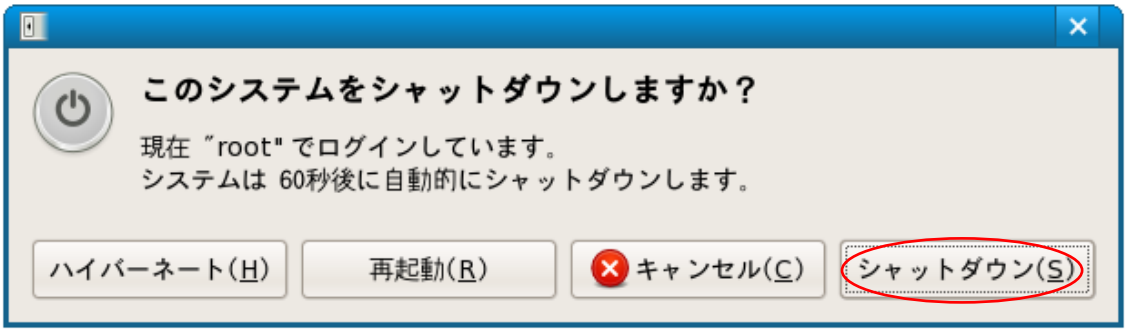
3.5.3. Fedora Core 8 の終了

Fedora Core 8 での作業が終わった場合は以下の手順で終了を行います。

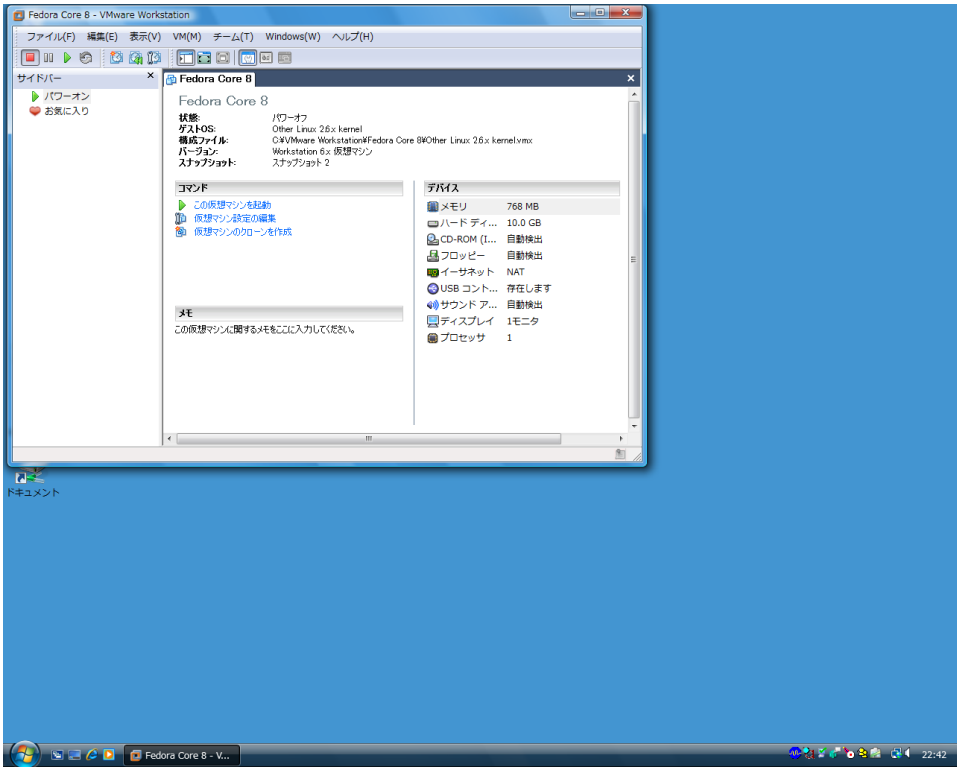
① Fedora Core 8 上で動作する GNOME のメニューから「システム」メニュー→「シャットダウン」をクリックします。



② 以下のダイアログが表示されます。
シャットダウンを選択します。



③　Fedora Core 8 のシャットダウンが開始され、終了すると以下の画面になります。



④　VMware を終了します。

VMware Workstation のメニューから「ファイル」→「終了」を選択します。

3.5.4.　シャットダウン

Linux の作業が終了しましたら、Windows を終了しパソコンの電源を切ります。

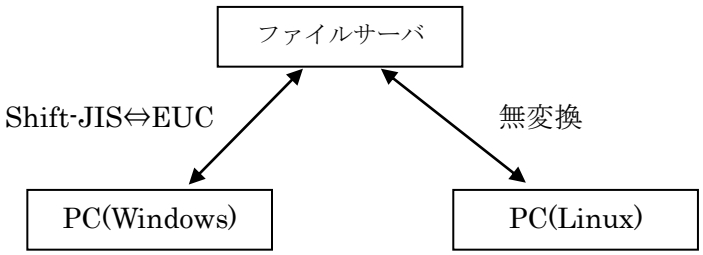
手順は「3.4.5. シャットダウン」参照。

3.5.5. Linux の環境について

①Linux の日本語環境

Linux(FedoraCore8)の文字コードは EUC の設定としています。
Windows で作成したファイル名はファイルサーバ上で Shift-JIS から EUC に自動変換されて、Linux 上でも正常に日本語で表示されます。
（但し、機種依存文字「Ⅱや②など」が入っていると文字化けします）

【ファイルサーバでの、ファイル名自動文字コード変換】



※変換されるのは日本語のファイル名だけで、ファイルの内容は変換されません。

・Windows で作ったファイルは日本語が Shift-JIS で保存されます。Linux で同じファイルを開く場合は、emacs を使うと日本語が文字化けせずに表示/編集可能です。（または nkf で文字コード変換を行う[$nkf -e ファイル名]）
・Linux で作ったファイルは日本語が EUC で保存されます。Windows で同じファイルを開く場合は、秀丸を使うと日本語が文字化けせずに表示/編集可能です。

②Linux の PostgreSQL 環境

Linux の PostgreSQL はログインした時点では起動していません。
起動および停止する方法は以下となります。

起動： $HOME/pgsql/postgresql start
停止： $HOME/pgsql/postgresql stop

PostgreSQL の初期データベースは Linux に初めてログインした時点で自動的に作成されます。

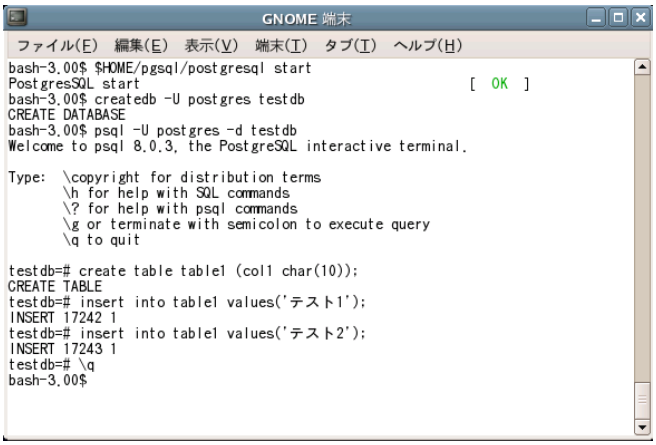
具体的には Linux にログインした時、$HOME/pgsql ディレクトリが存在しない場合、初期データベースと設定ファイル一式を$HOME/pgsql ディレクトリにコピーする設定としています。$HOME/pgsql のディレクトリが存在している場合は上書きしませんので変更した設定や、データベースの内容は別のＰＣで作業しても個人別に引き継がれます。

初期データベースはテーブルなどがありません。自分用のデータベースを作成する方法は以下となります。

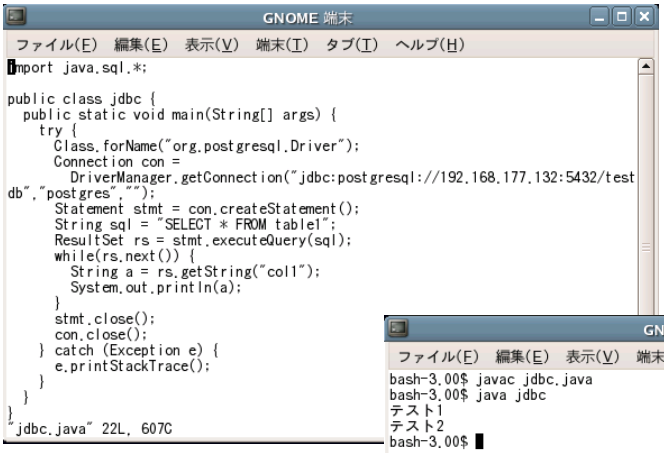
$ createdb -U postgres データベース名
または

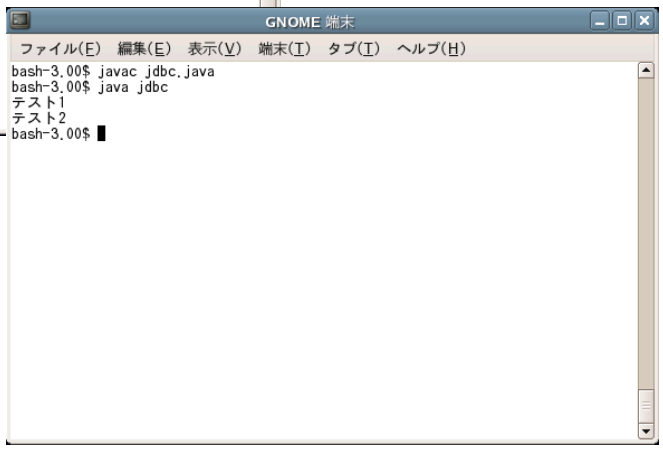
$ psql -U postgres -d template1

template1=# create database データベース名;


GNOME 端末
ファイル(F) 編集(E) 表示(V) 端末(T) タブ(T) ヘルプ(H)
bash-3.00$ $HOME/pgsql/postgresql start
PostgresSQL start [OK]
bash-3.00$ createdb -U postgres testdb
CREATE DATABASE
bash-3.00$ psql -U postgres -d testdb
Welcome to psql 8.0.3, the PostgreSQL interactive terminal.
Type: \copyright for distribution terms
\h for help with SQL commands
\? for help with psql commands
\g or terminate with semicolon to execute query
\q to quit
testdb=# create table table1 (col1 char(10));
CREATE TABLE
testdb=# insert into table1 values('テスト1');
INSERT 17242 1
testdb=# insert into table1 values('テスト2');
INSERT 17243 1
testdb=# \q
bash-3.00$

※参考：Java から PostgreSQL へのアクセス例



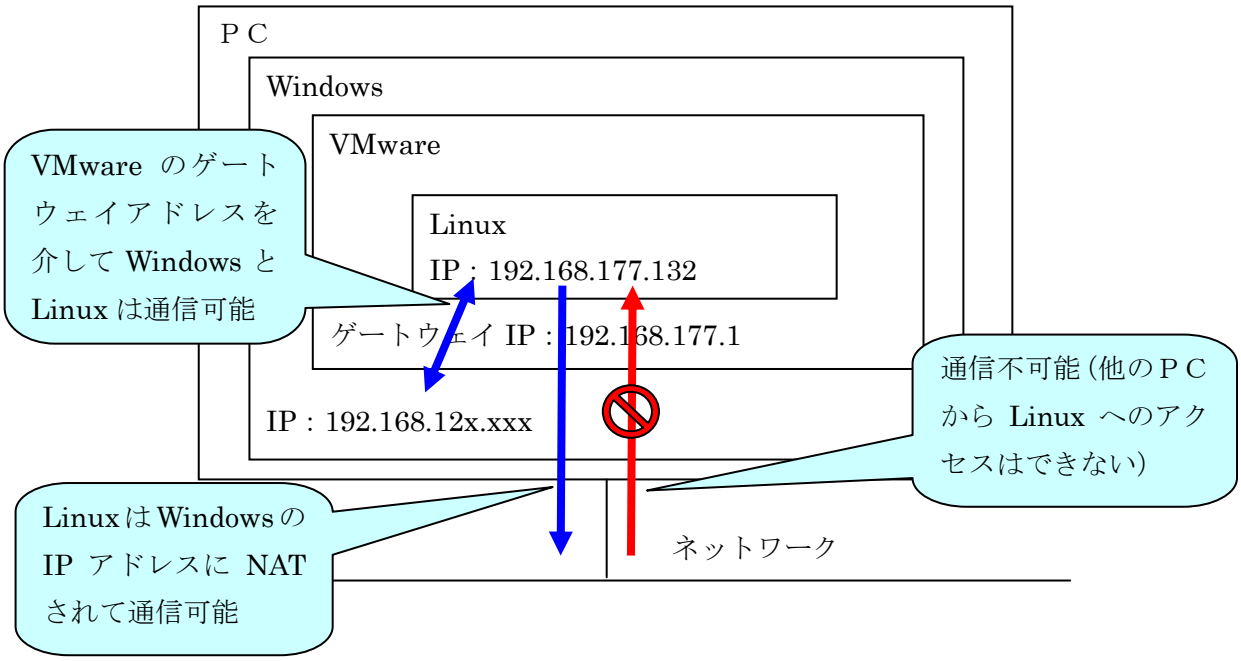


③Linux のネットワーク環境

Windows の IP アドレス 192.168.12x.xxx ですが、VMware は Windows 上に 192.168.177.1 の仮想ネットワークを作ります。

この仮想ネットワークの IP アドレスが VMware 上の Linux とのゲートウェイアドレスとなり、Linux の 192.168.177.132 と通信できます。

Linux はファイルサーバなど外部との通信では、Windows のＩＰに NAT されて通信します。



3.6. ドライブの割り当て

3.6.1. ドライブの割り当て

Windows にログオンすると個人用フォルダが自動的に割り当てられます。

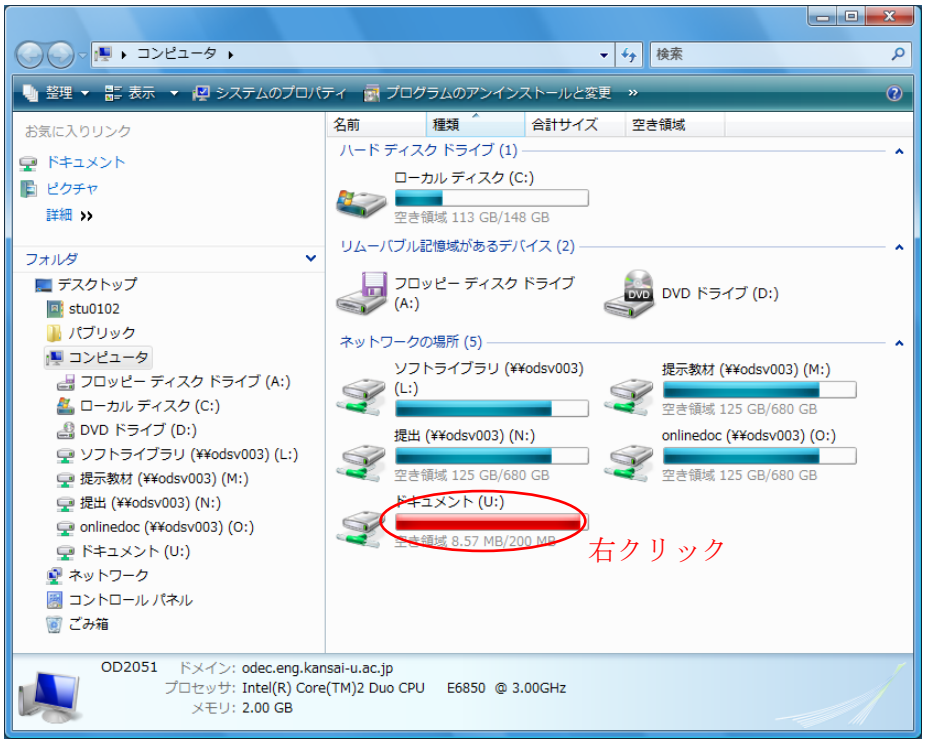
自動的に割り当てられるフォルダと用途

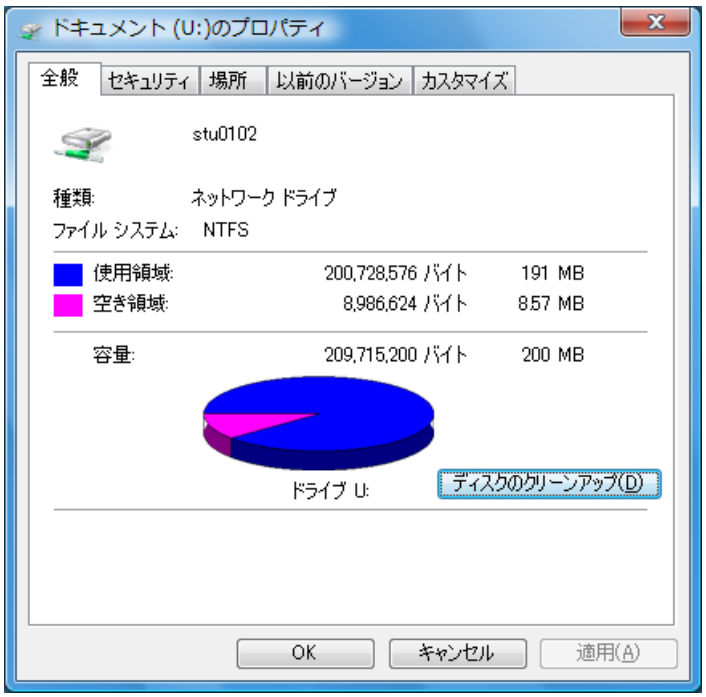
ドライブ	共有名	用途	アクセス権限
U:	xxxxx（xxxxx はログオン ID）	個人用フォルダです。学生は 200MB、教員は 400MB 保存できます。SSLVPN 経由で学外や研究室からもアクセス可能です。	ログオンした個人のみが読み書き可能です。
M:	提示教材	学生に提示する教材。**毎週日曜日にデータがクリア（削除）されます。**授業で使う教材は U ドライブ（個人フォルダ）で作成し、学生に提示する時にこのフォルダに入れてください。	先生、TA は書き込み可能。学生は読み込みのみ可能。
N:	提出	学生が提出する課題など。**毎週日曜日にデータがクリア（削除）されます。**提出された課題などは授業終了時に先生の U ドライブ（個人フォルダ）に移してください。	先生、TA、学生とも書き込み可能。
L:	ソフトライブラリ	授業で一時的に使うフリーソフトなどを格納し、ネットワークドライブを利用したインストールが行えます。	先生、TA は書き込み可能。学生は読み込みのみ可能。
O:	onlinedoc	ODECS システム利用方法などのオンラインドキュメントを格納します。	読み取り専用

3.6.2. 個人用フォルダの容量確認方法

＜OD 教室内での利用時＞

コンピュータを開いて、U ドライブを右クリックし、プロパティを開けば、現在の使用量と空容量が確認できます

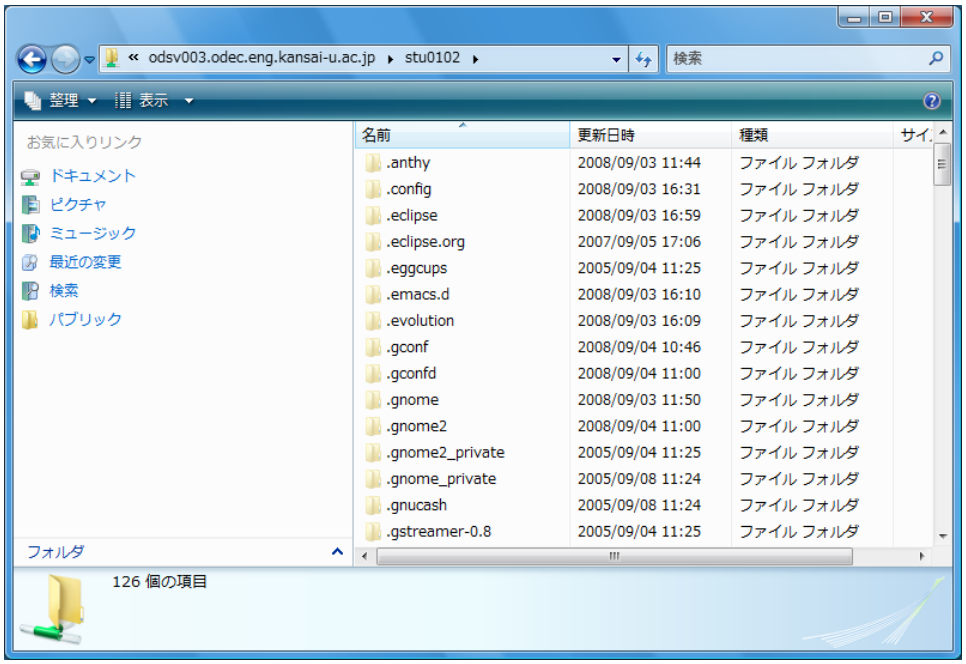




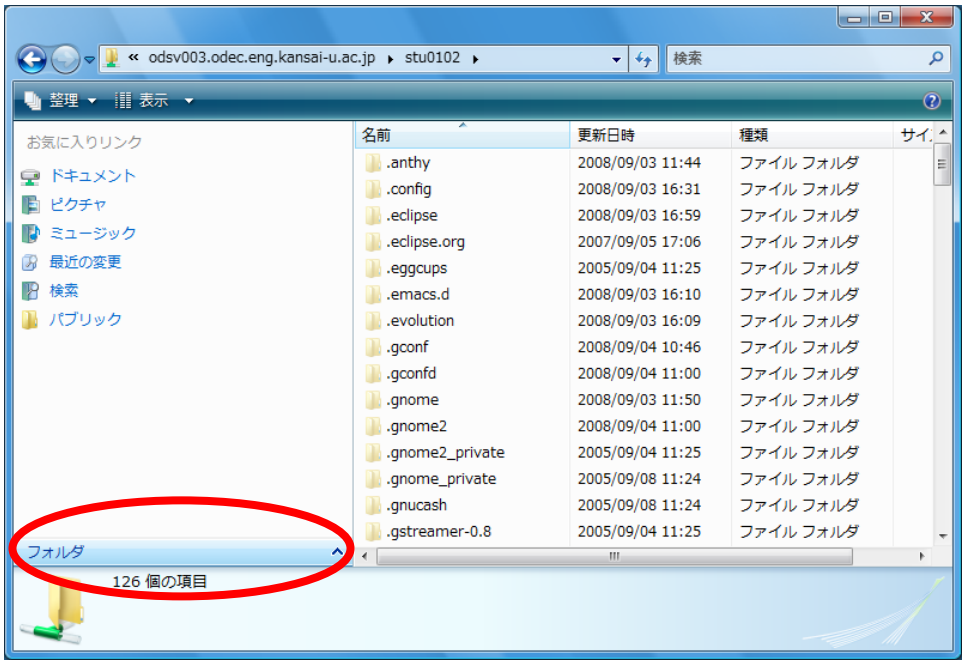
＜SSL VPN 利用時＞

Windows では、ネットワークフォルダの容量表示が行えません。ネットワークドライブとして割り当てることで、容量を表示することができます。以下に手順を示します。

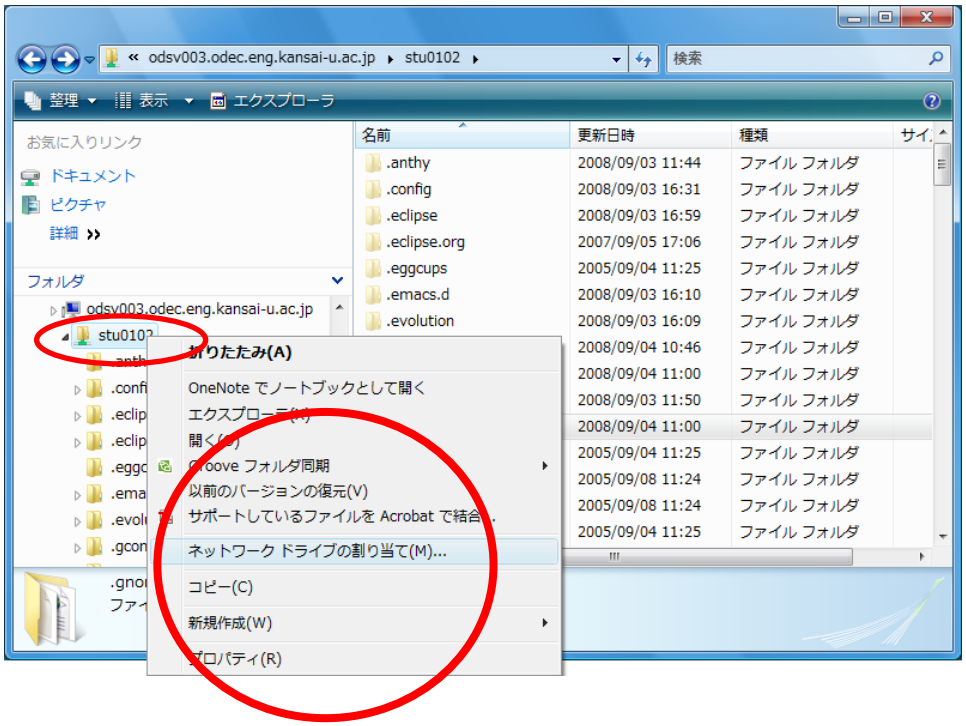
①ＳＳＬＶＰＮでホームディレクトリを開きます。



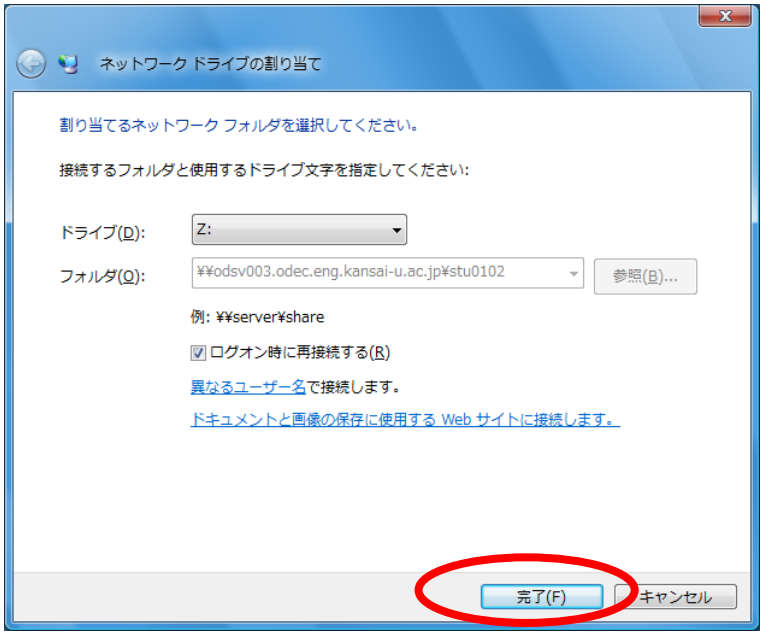
②フォルダを表示します。



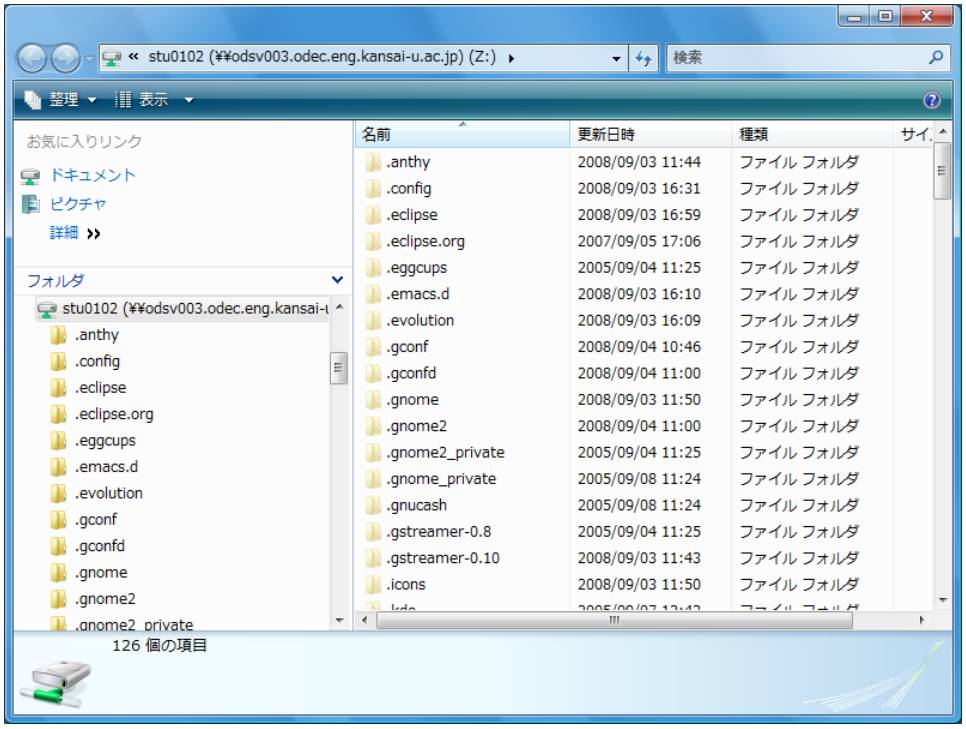
③フォルダを右クリックし、「ネットワークドライブの割り当て」を行います。



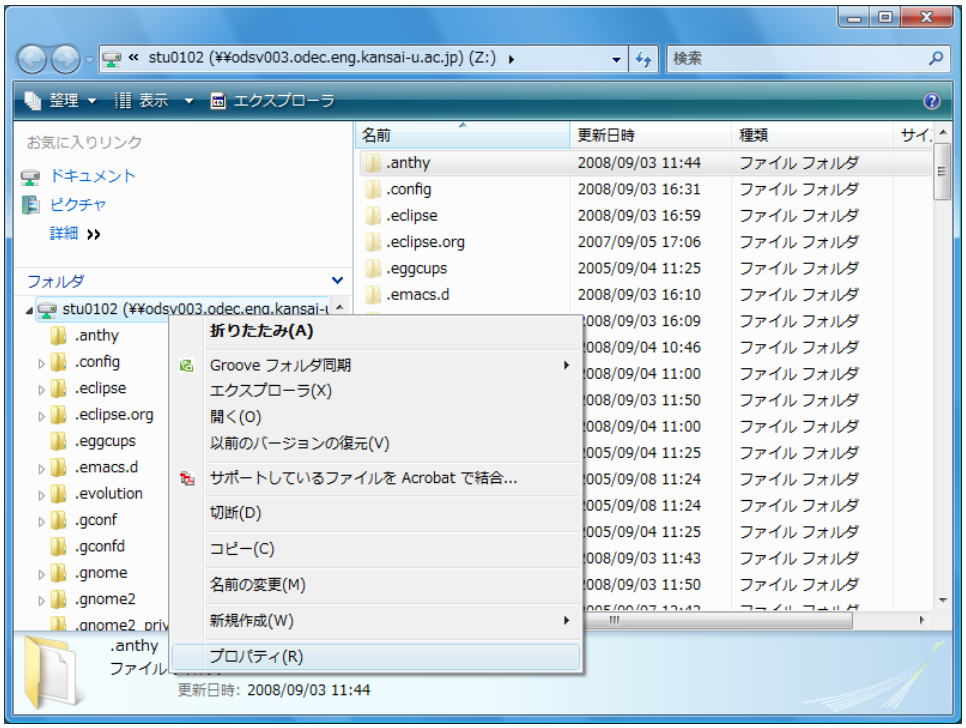
④利用していないドライブを割り当てます。



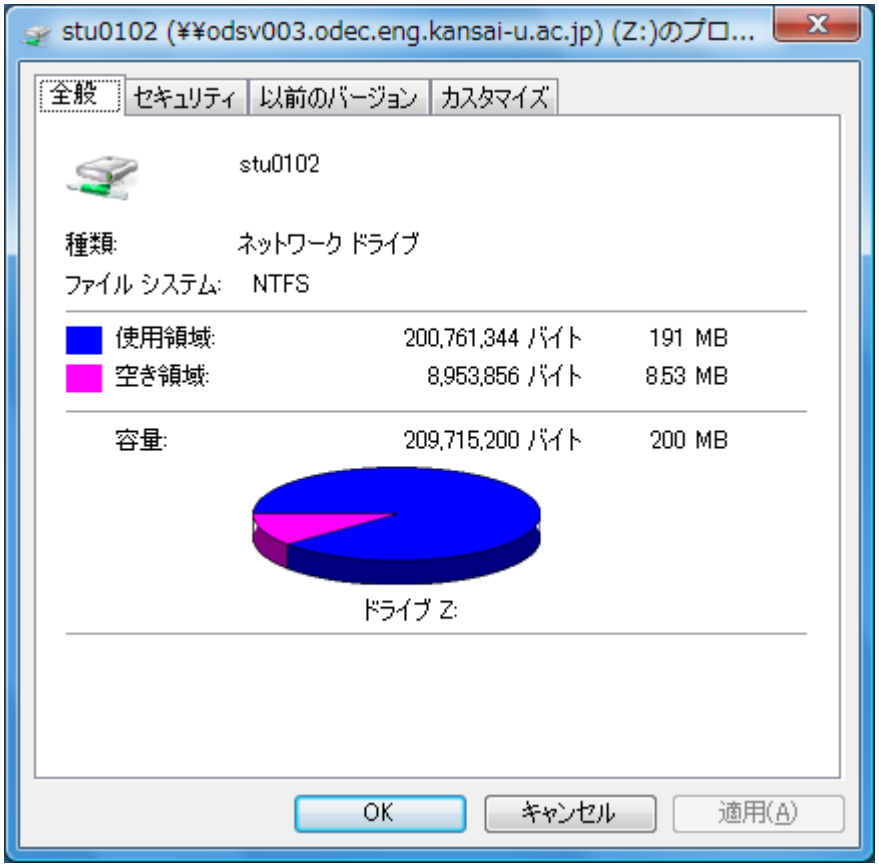
⑤割り当てた個人用フォルダが表示されます。



⑥表示された個人用フォルダで右クリックし、プロパティを開きます。



⑦使用容量と空容量が表示されます。



4.　プリント枚数の確認手順

ODECS システムでは、各 OD 教室利用者のプリンタ管理を行っています。
プリンタ管理を利用することで、プリンタ利用者に対して 1 ヵ月間にプリントできる枚数を制限・把握することができます。
学生は、自分のプリント枚数を確認することができます。
なお、現状の制限値の設定はモノクロ 180 枚/カラー20 枚となっています。

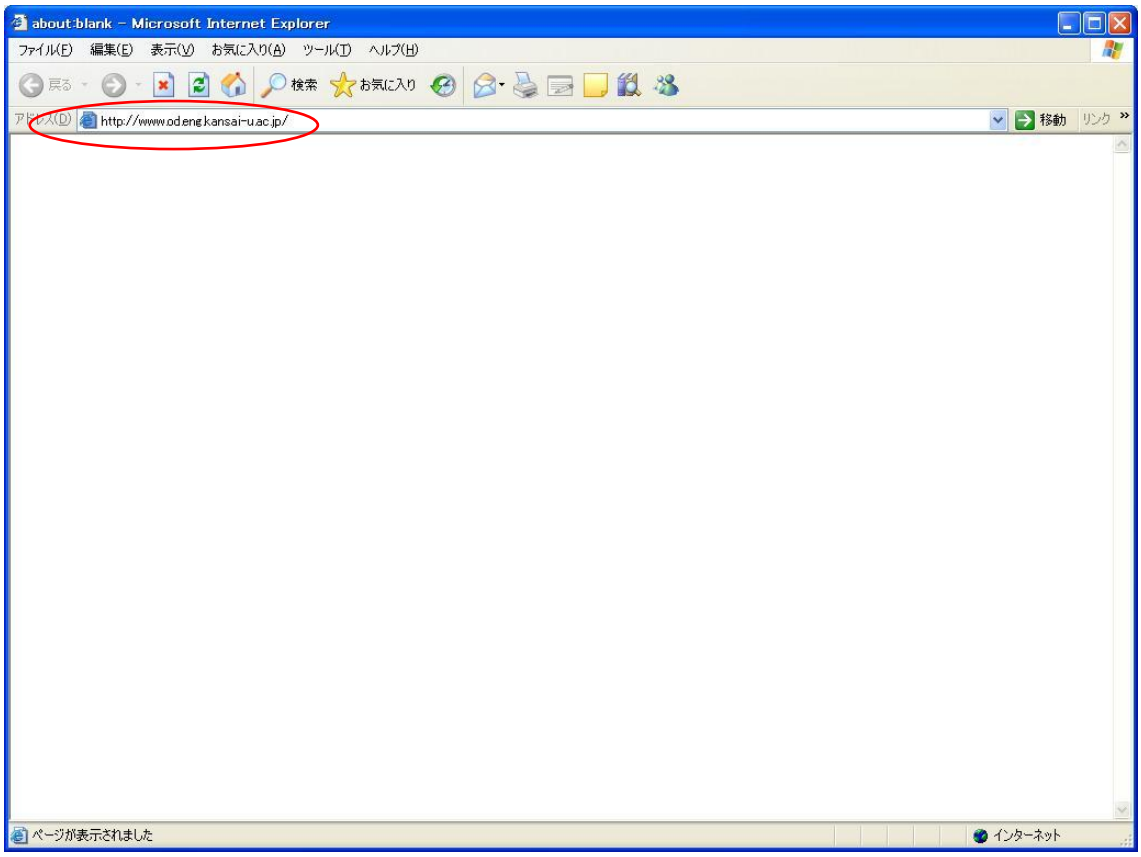
本章では、印刷枚数の確認方法について記述します。

4.1. プリント枚数の確認

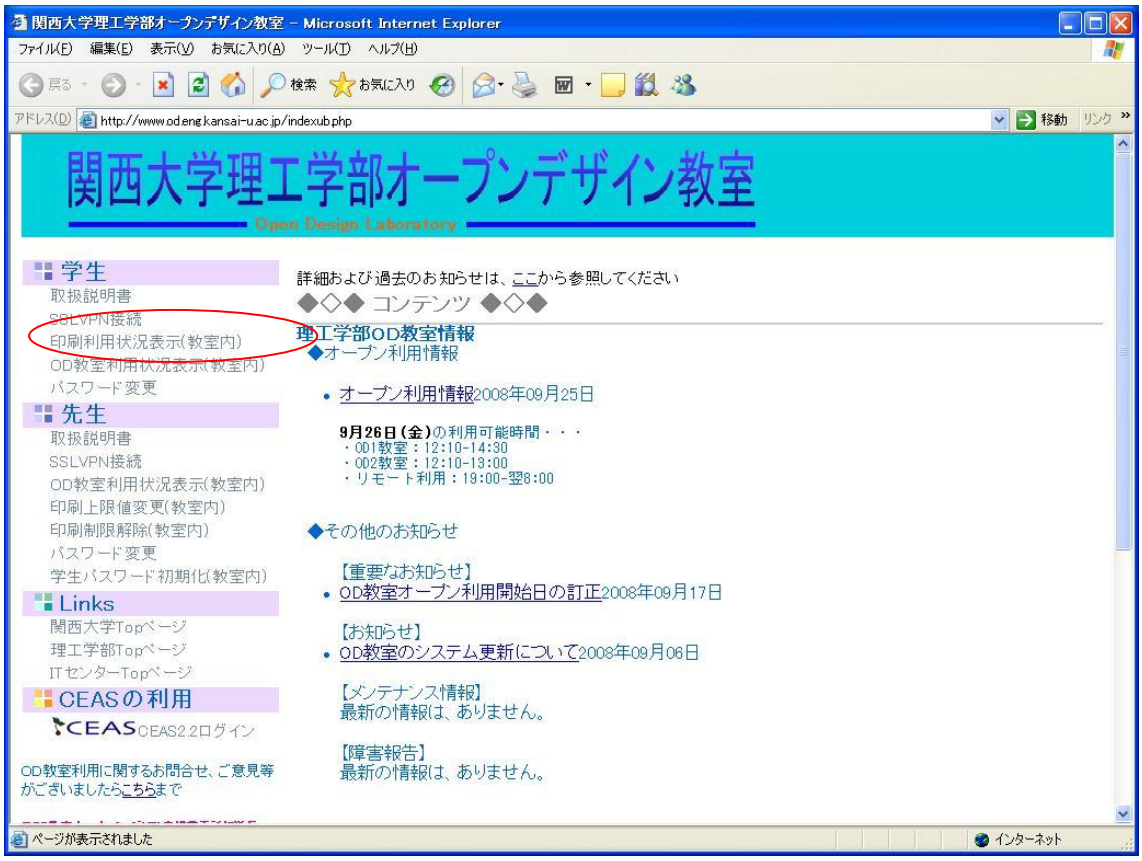
プリント枚数の確認は、WEB 画面を利用して行います。

① 普段ご使用になられている Internet Explorer または Mozilla Firefox などの WEB ブラウザを起動します。(以降の説明は Internet Explorer を使用した場合のものです。)

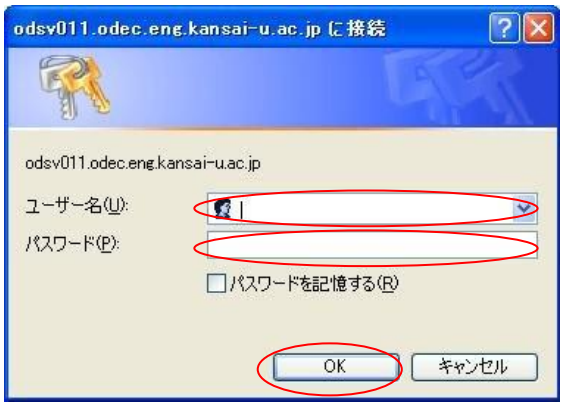
② Internet Explorer のアドレス欄に「OD 教室トップページ」の URL を入力し、Enter キーを押下または Internet Explorer の「移動」ボタンをクリックします。
OD 教室トップページの URL：
http://www.od.eng.kansai-u.ac.jp/



③　表示されるトップページの左にある「学生」から「印刷利用状況表示」をクリックします。



④　認証ダイアログが表示されます。
自分のユーザ名・パスワードを入力し、「ＯＫ」ボタンをクリックします。

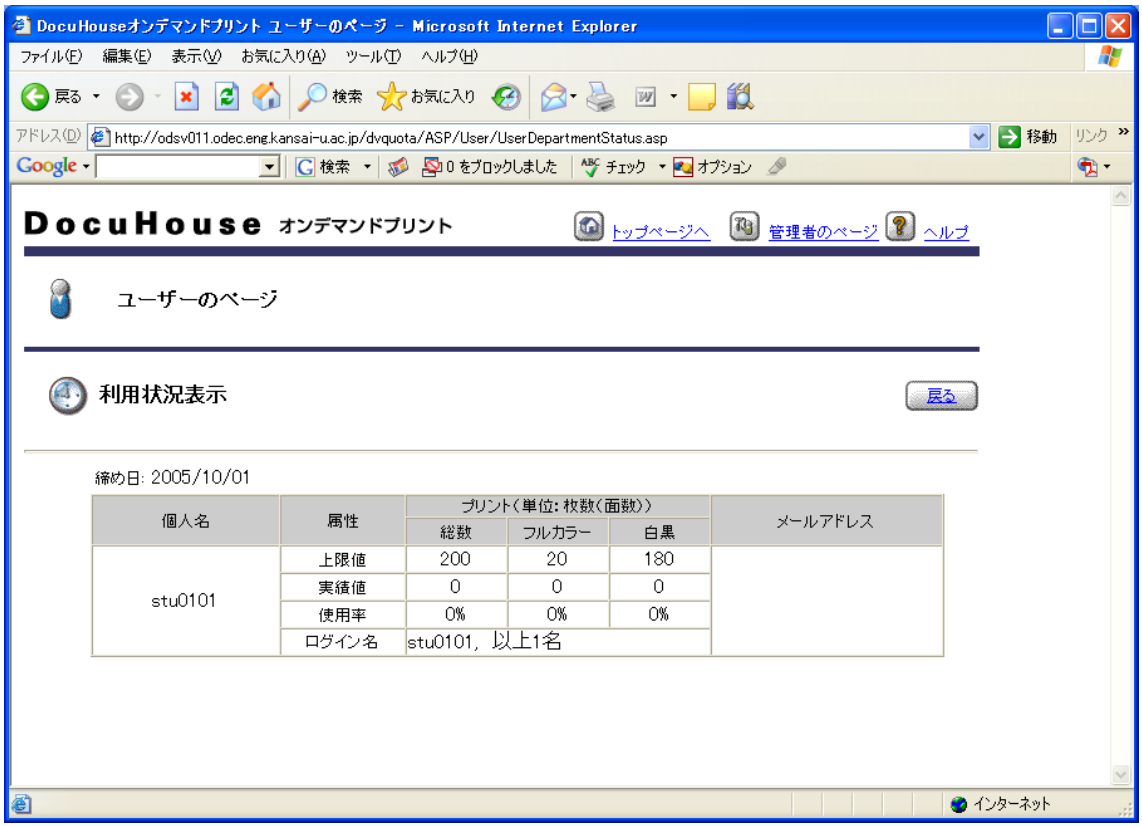


⑤　「利用状況表示」画面が表示されます。

現状の自分の印刷枚数の確認が行えます。

なお､現状の上限値の設定は１カ月　モノクロ 180 枚､カラー20 枚となっています。

パスワードの初期化を行うために認証が必要になりますので、先生ご自身のユーザ ID、パスワードを入力して、「ログイン」ボタンをクリックして下さい。



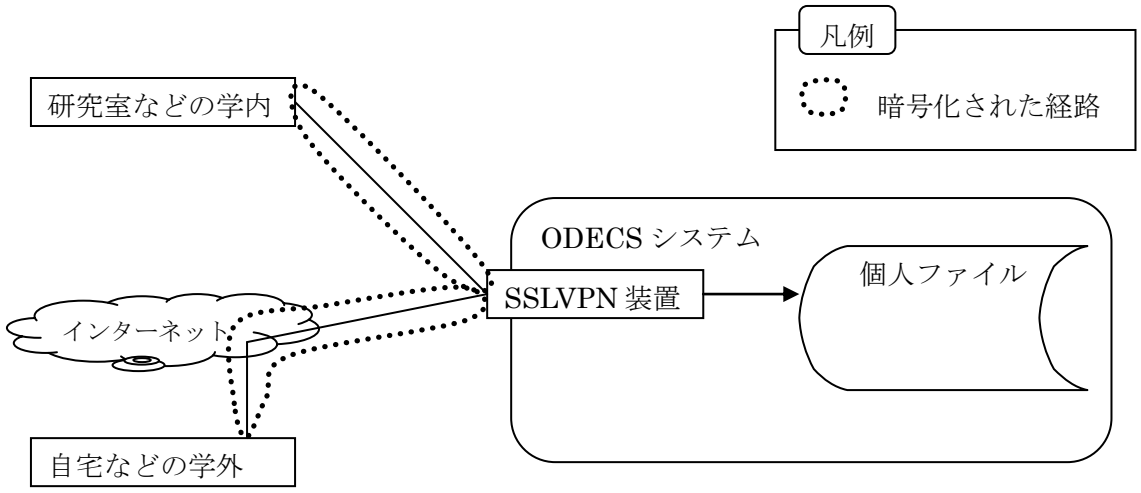
１カ月の上限値（モノクロ 180 枚、カラー20 枚）を超えてしまった場合は、先生に申告してください。

5. SSLVPN 接続手順

ODECS システムには、自宅などのリモート環境から OD 教室のファイルサーバを利用することができるＳＳＬＶＰＮ機能が用意されています。

自宅や研究室などから、SSLVPN 装置を経由して ODECS システムへ接続することで、通信経路を暗号化します。

＜イメージ図＞



SSLVPN 接続の利用対象者は ODECS システムを利用可能な方です。

本章では、以下のＳＳＬＶＰＮ機能の利用手順について説明します。

5.1　OD 教室トップページへアクセス
5.2　SSLVPN 接続
5.3　ファイルサーバの利用
5.4　SSLVPN 接続の終了

リモートデスクトップについては、次章にて説明します。

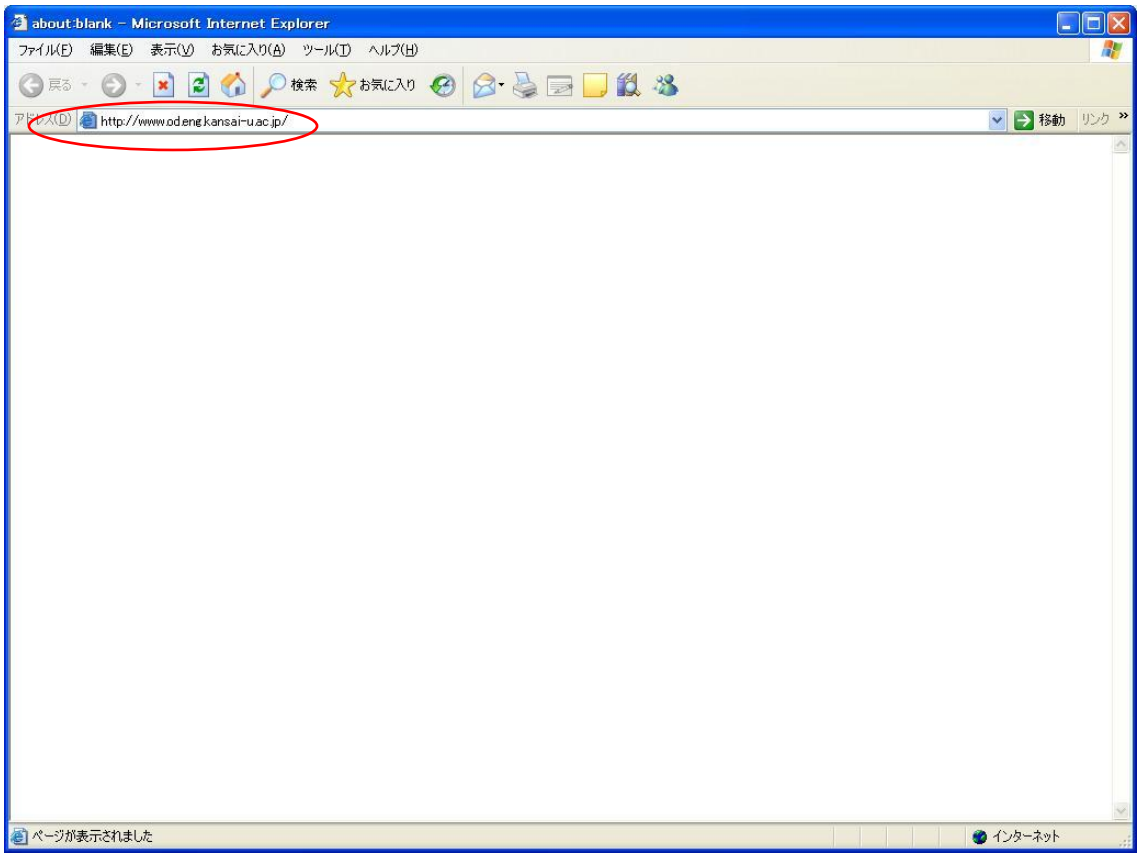
5.1. OD 教室トップページへアクセス

SSLVPN 接続を行う場合、まず「OD 教室トップページ」にアクセスします。

「OD 教室トップページ」へのアクセスは以下のようになります。

① 普段ご使用になられている Internet Explorer または Mozilla Firefox などの WEB ブラウザを起動します。(以降の説明は Internet Explorer を使用した場合のものです。)

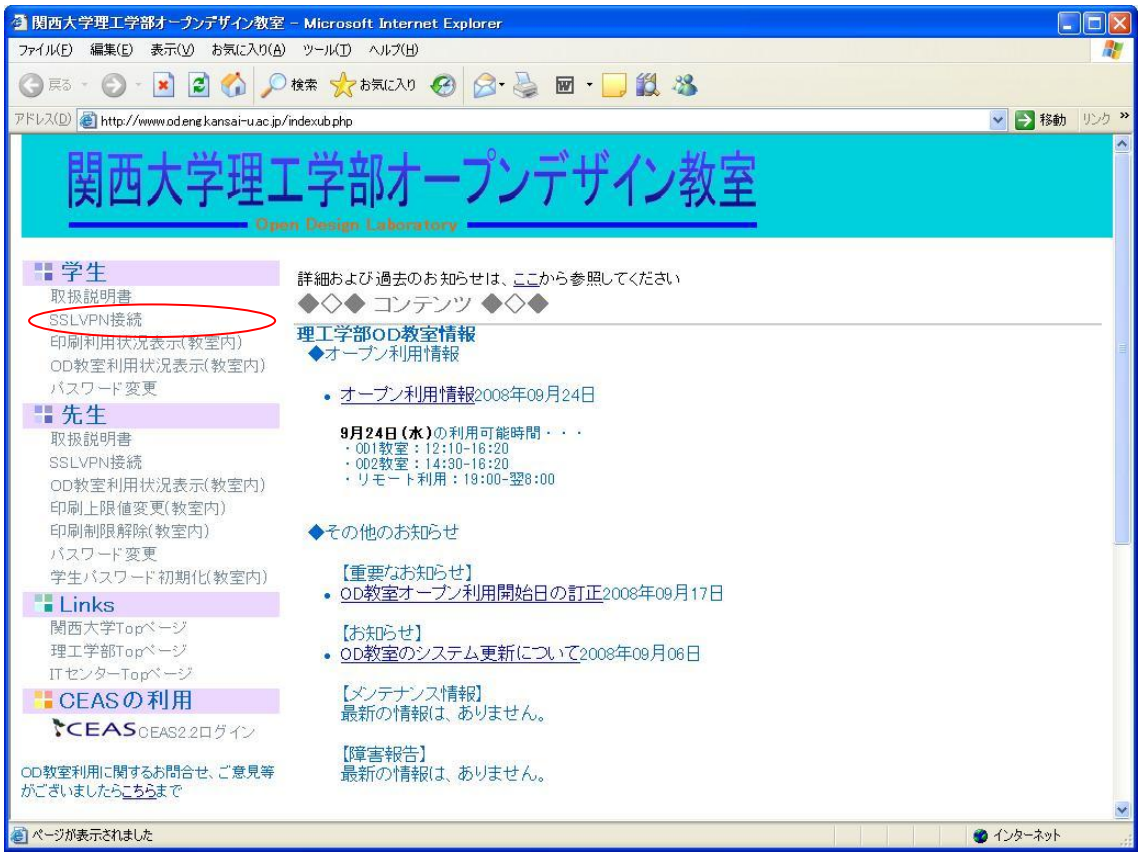
② Internet Explorer のアドレス欄に「OD 教室トップページ」の URL を入力し、Enter キーを押下または Internet Explorer の「移動」ボタンをクリックします。
OD 教室トップページの URL：
http://www.od.eng.kansai-u.ac.jp/



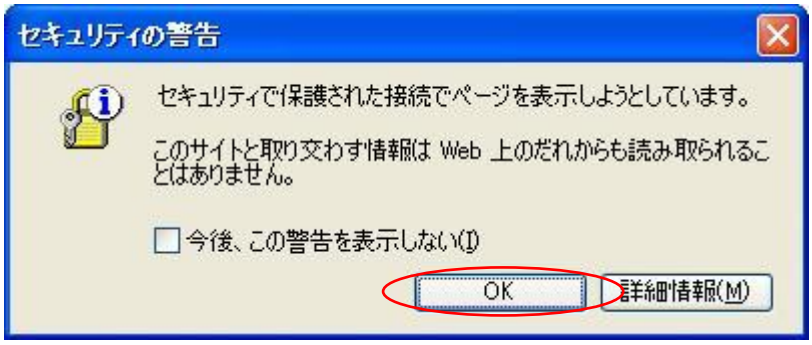
5.2. SSLVPN 接続

SSLVPN による接続が行われ暗号化された状態でないと、個人ファイルへのアクセスやリモートデスクトップ機能を利用することはできません。
SSLVPN への接続方法を説明します。

① 表示されるトップページの左にある「学生」から「SSLVPN 接続」をクリックします。



② 暗号化を行うため以下の「セキュリティの警告」ダイアログが表示されます。「OK」ボタンをクリックしてください。



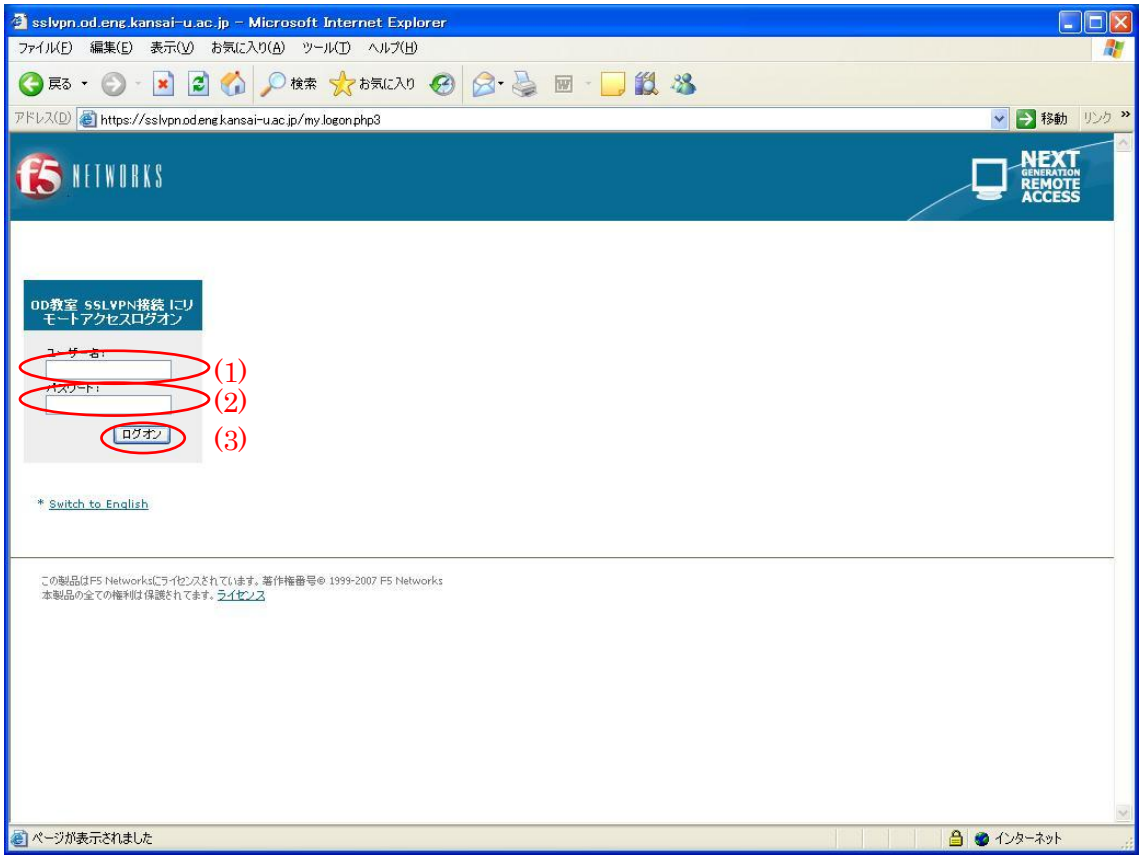
③　「OD 教室 SSLVPN 接続」画面が表示されます。

SSLVPN 接続を開始するためにユーザ名およびパスワードを入力します。

(1)　ユーザ名を入力します。普段 OD 教室で利用しているログイン ID を入力してください。

(2)　パスワードを入力します。普段 OD 教室で利用しているパスワードを入力してください。

(3)　「ログイン」ボタンをクリックしてください。

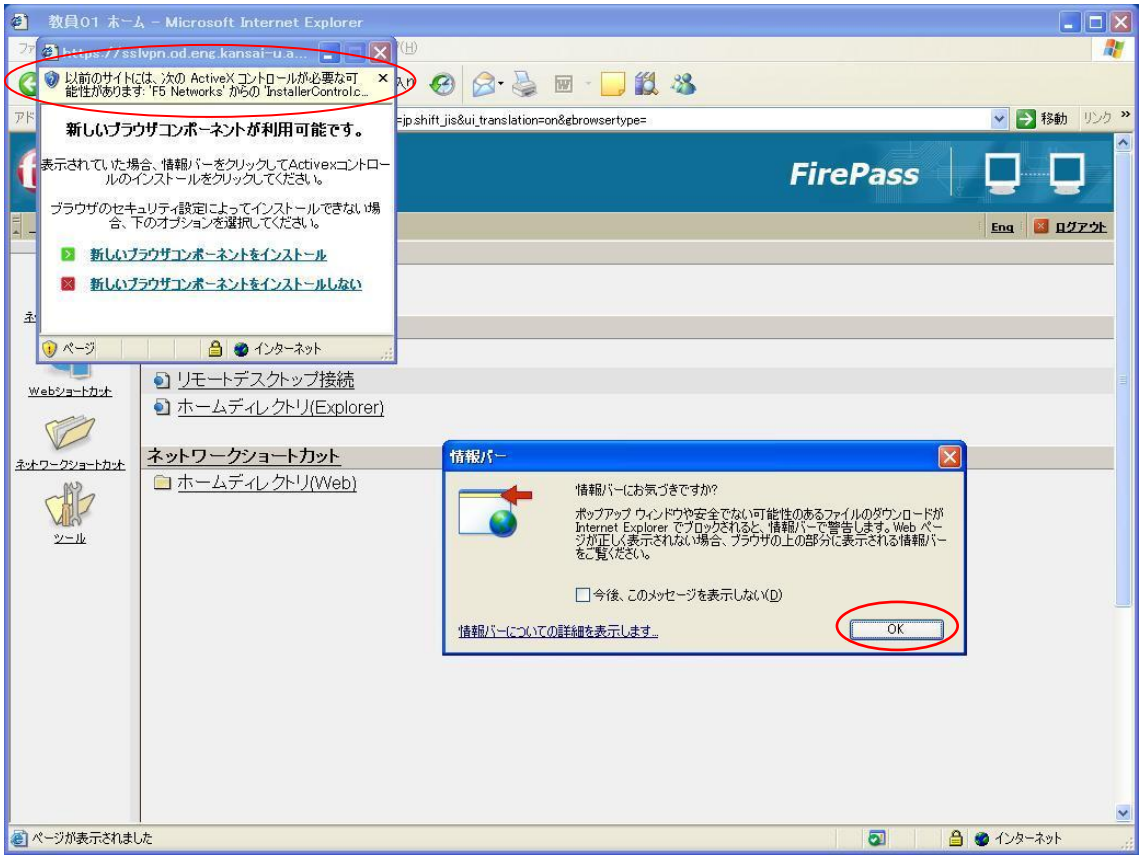


④　ユーザ名パスワードによる認証が行われます。

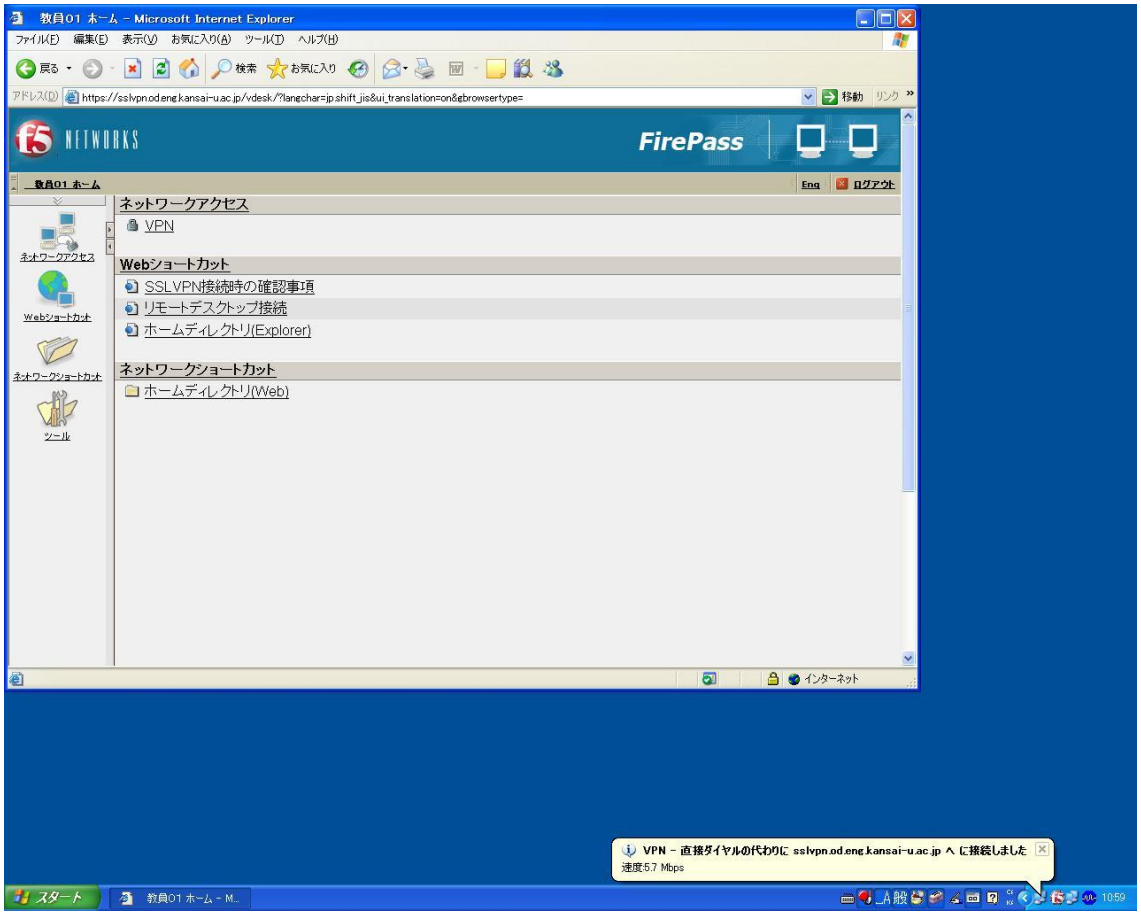
認証が成功すれば SSLVPN 接続を開始します。

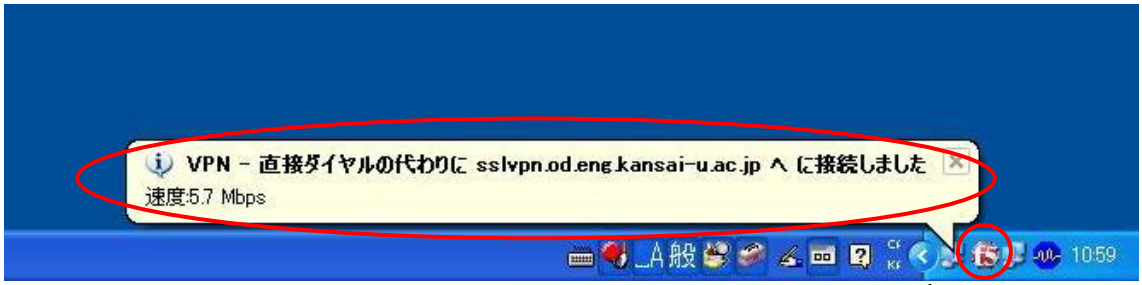
初めて SSLVPN に接続する場合、必須プログラムのインストールなどを行うため多少時間がかかります。

※「情報バー」ダイアログの「OK」ボタンをクリックして、「情報バー」より「ActiveX コントロールのインストール」を選択してください。



⑤　以下の画面が表示されれば、SSLVPN 接続に成功です。



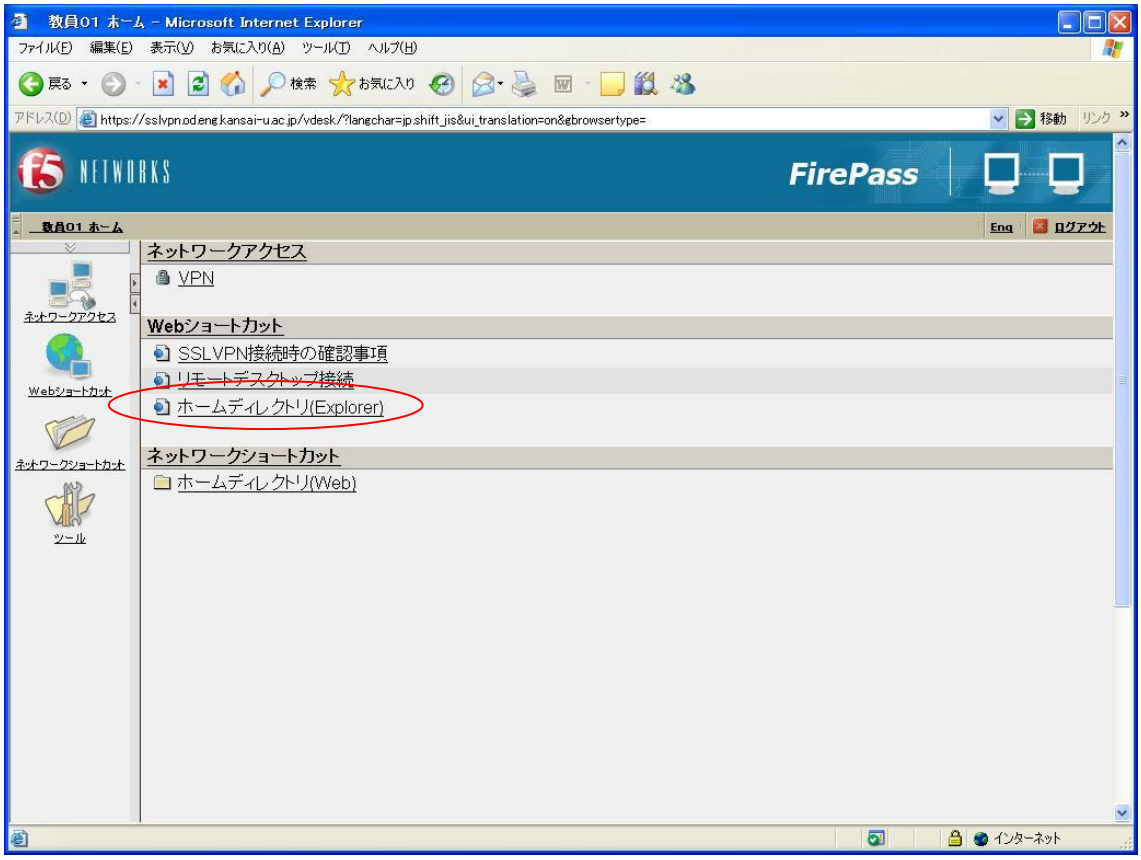


「f5」のアイコンが表示され、「VPN - 直接ダイヤルの代わりに sslvpn.od.eng.kansai-u.ac.jp へ」が表示されます。

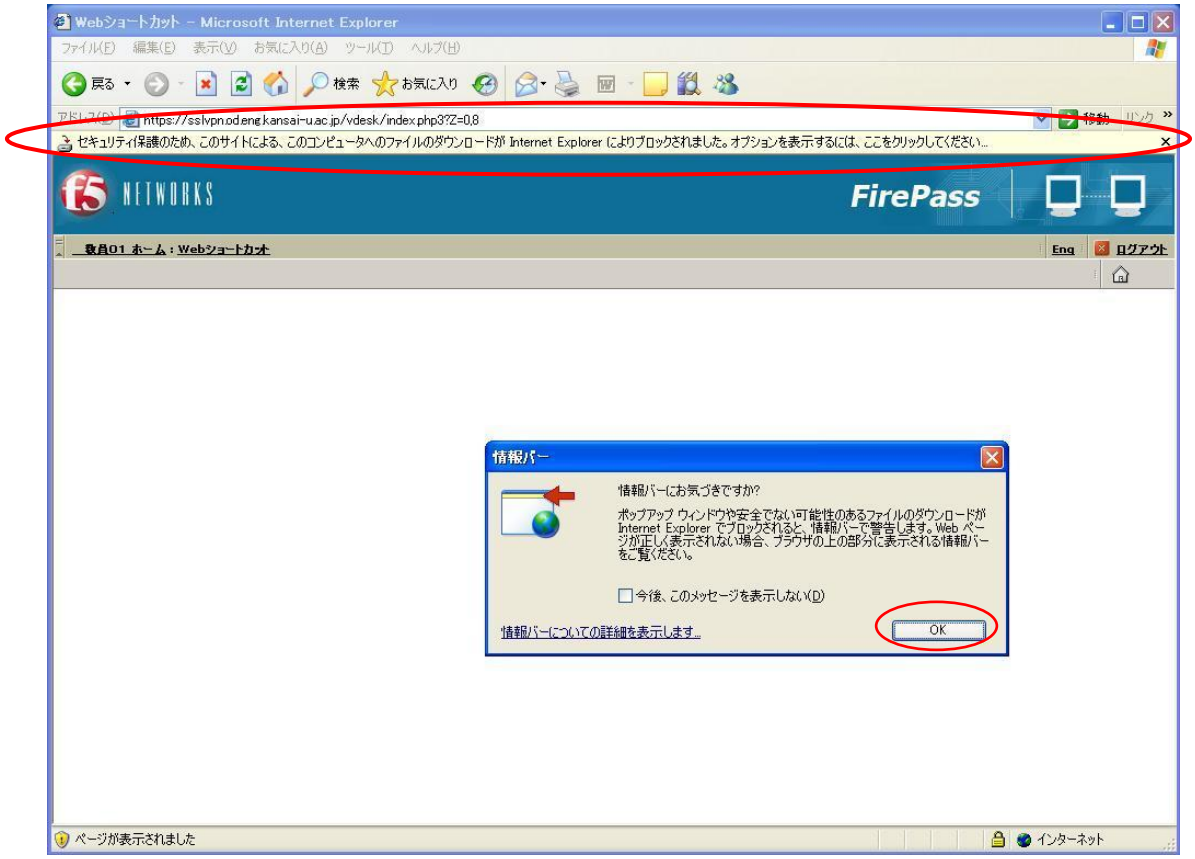
5.3. ファイルサーバの利用

ご利用のパソコンが Windows2000/XP/Vista であれば、エクスプローラによるファイルサーバの利用が可能となります。

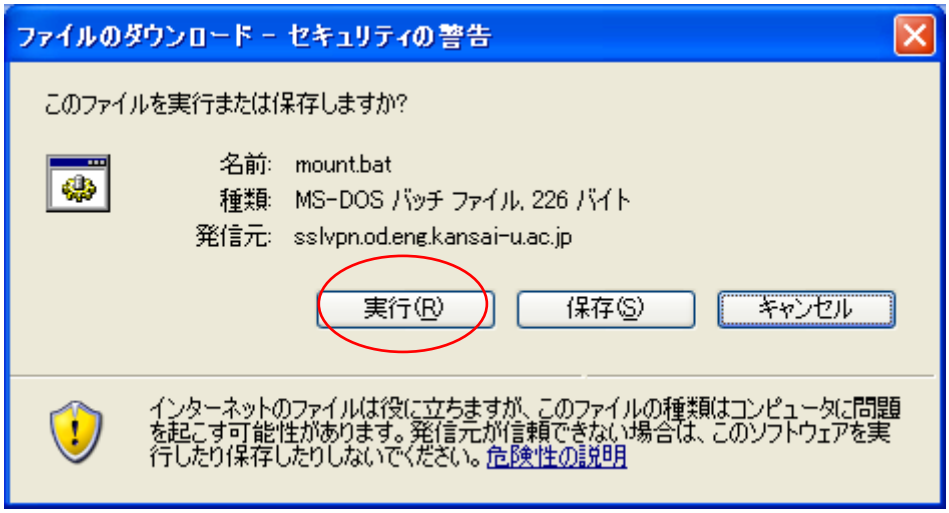
① 表示された SSLVPN ポータルサイトにある「Web ショートカット」から「ホームディレクトリ(Explorer)」をクリックします。



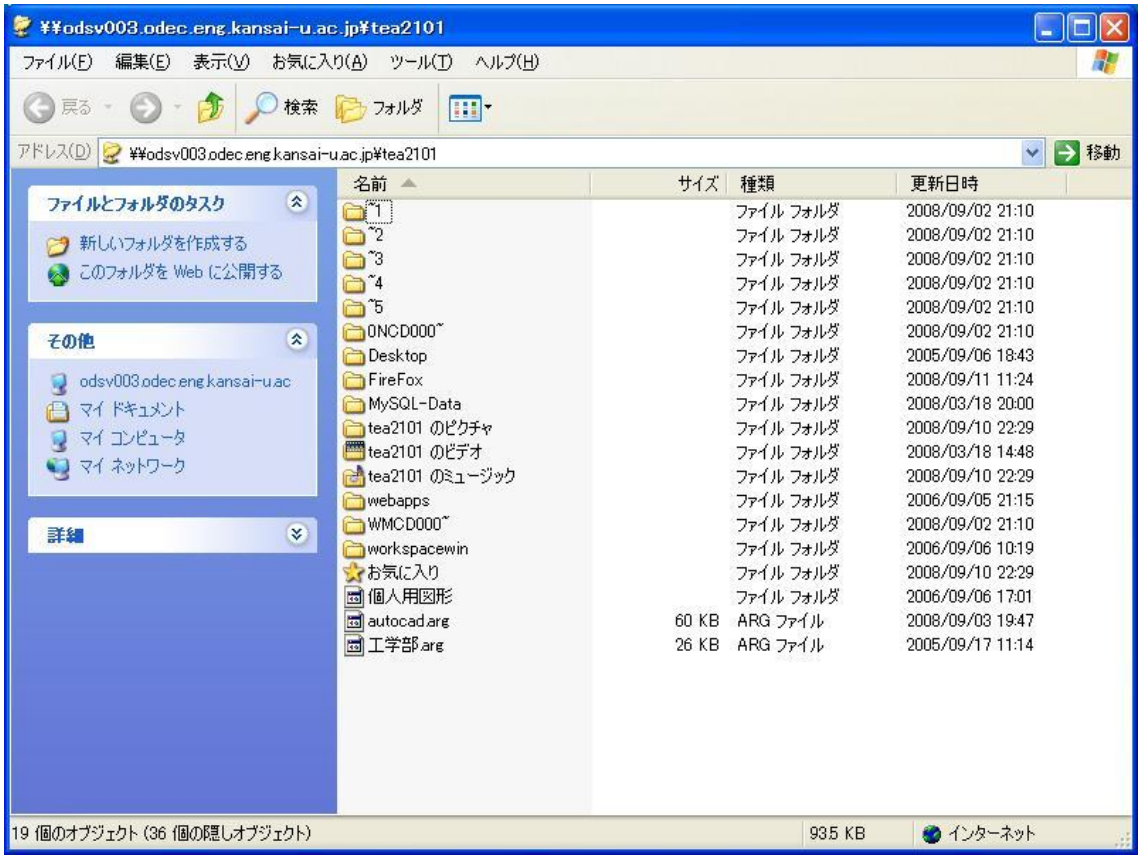
② ファイルダウンロードの「情報バー」と「情報バー」ダイアログが表示されます。「OK」ボタンをクリックして、「情報バー」より「ファイルのダウンロード」を選択してください。



③　ファイルのダウンロード画面が表示されたら、「実行」ボタンを押します。

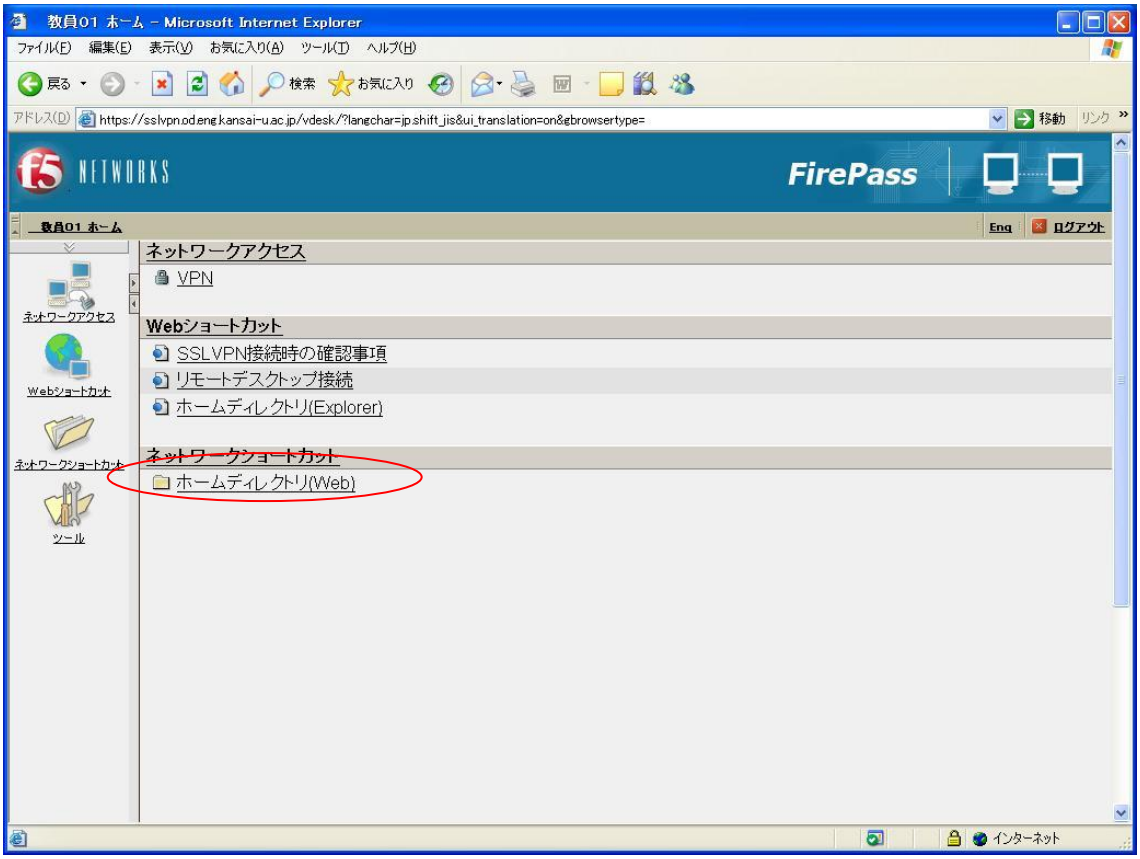


④　エクスプローラにファイルサーバのホームディレクトリが表示され、利用可能となります。

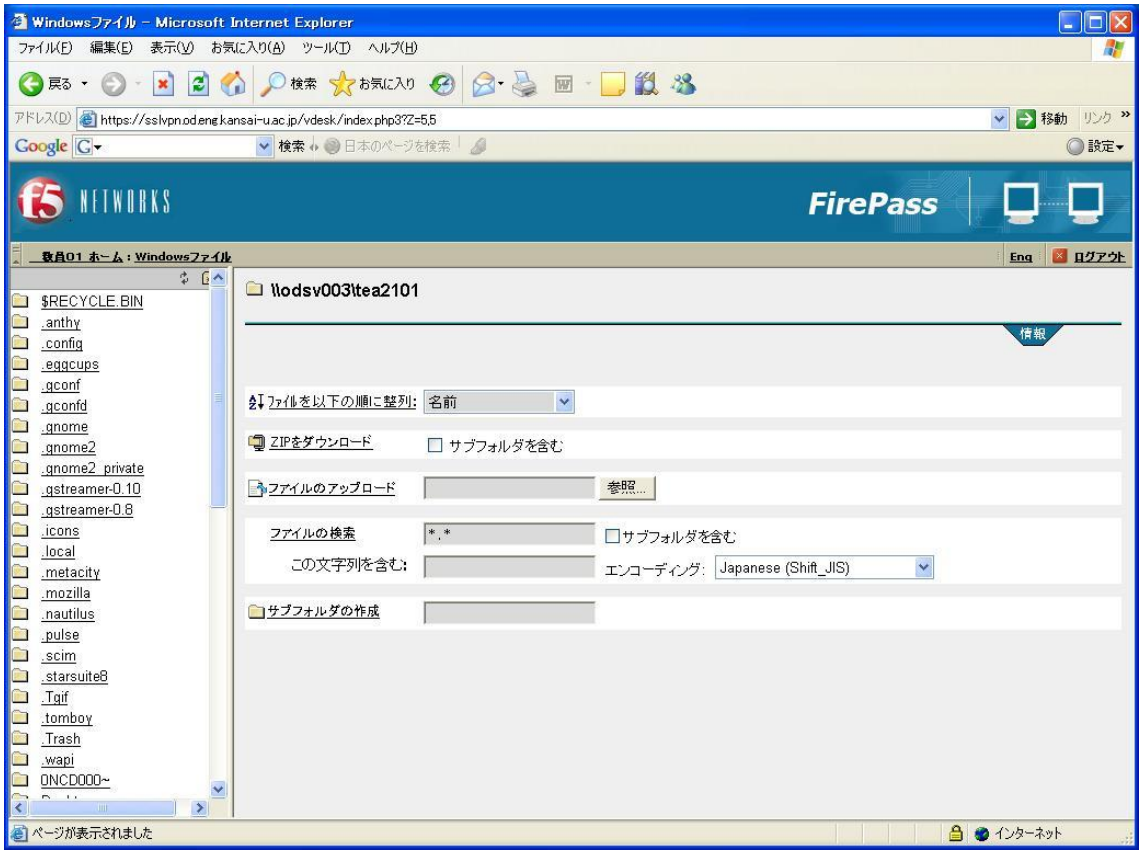


ご利用のパソコンが Windows2000/XP/Vista 以外のクライアントは上記方法で接続できない為、Web サービスを利用したファイルサーバの利用が可能となります。
なお、Windows2000/XP/Vista でも Web サービスでのファイルサーバの利用は可能です。

① 表示された SSLVPN ポータルサイトにある「ネットワークショートカット」から「ホームディレクトリ(Web)」をクリックします。



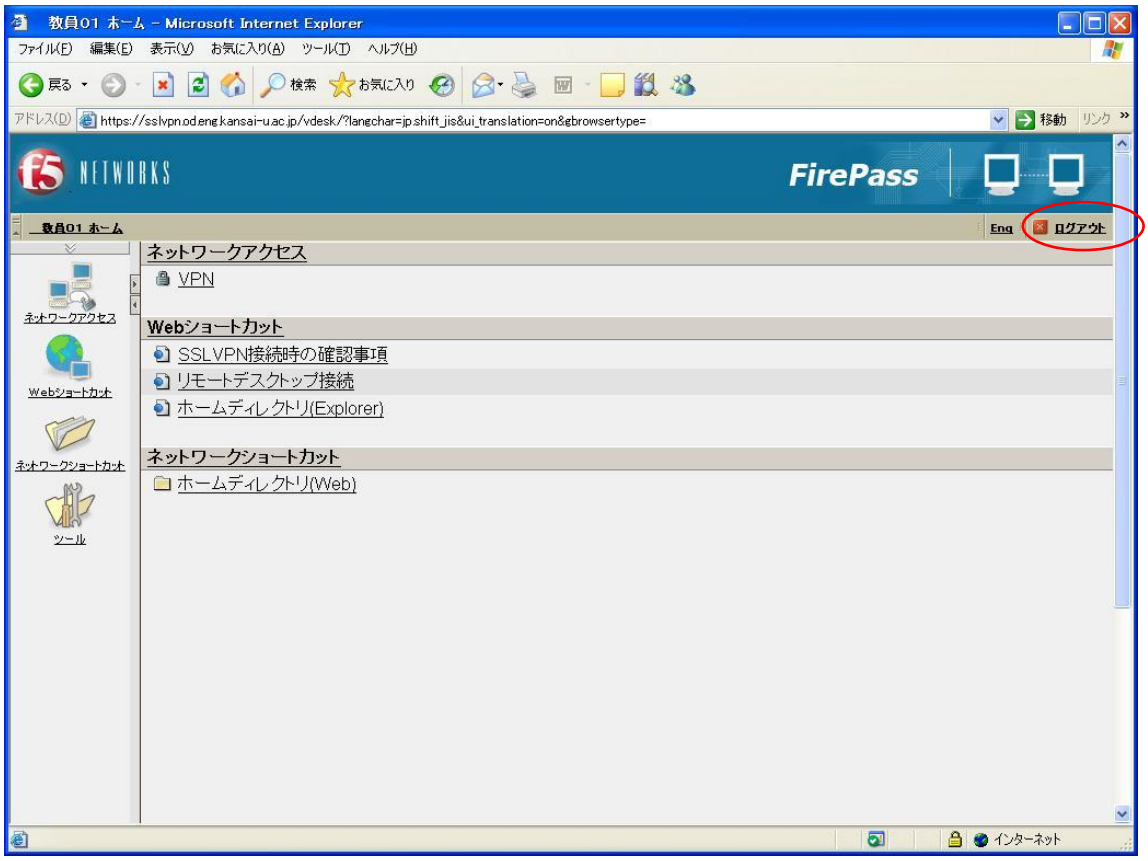
② 左側のフレームにファイルサーバのホームディレクトリが表示され、Web 画面でファイルのアップロード、ダウンロードができます。



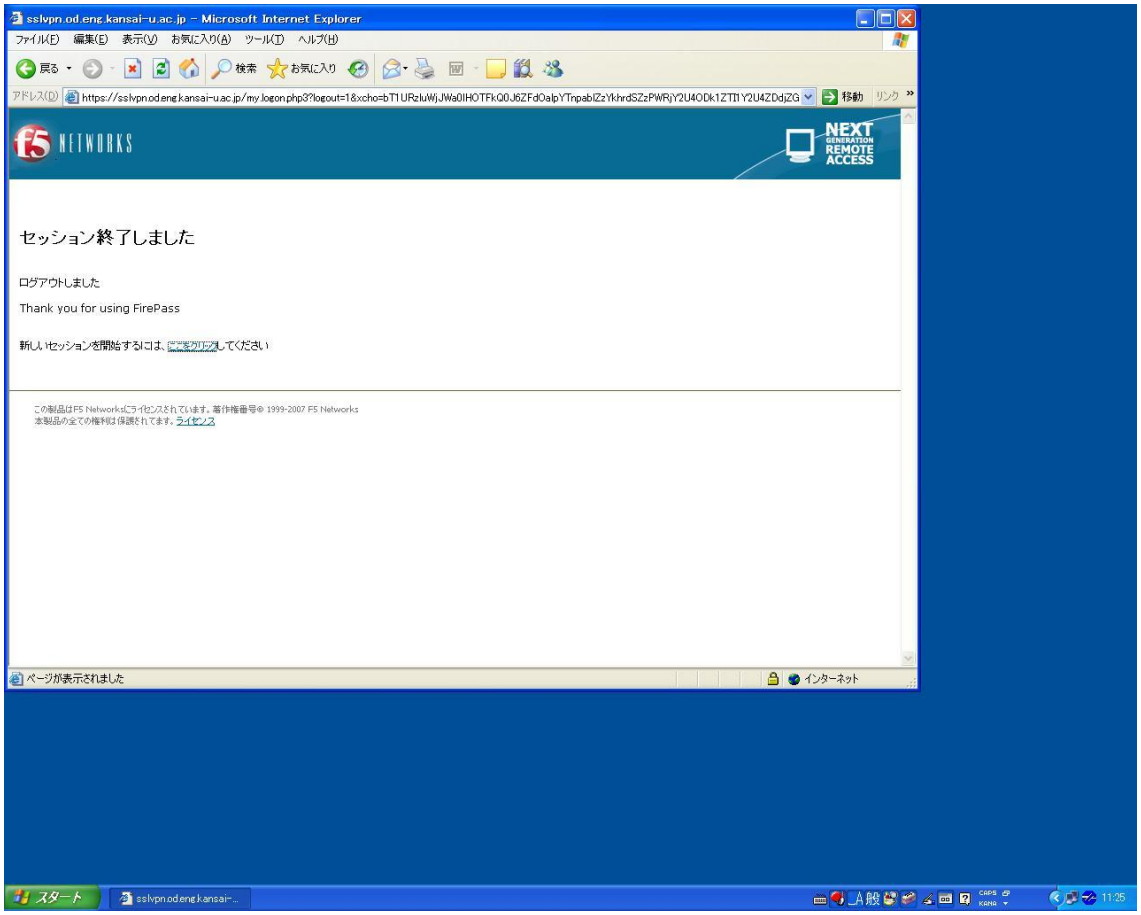
5.4. SSLVPN 接続の終了

SSLVPN サービスを終了する際は、必ずログアウト処理を行います。

① 表示された SSLVPN ポータルサイトにある「ログアウト」をクリックします。



② 以下の画面が表示されれば、終了です。



「f5」のアイコンと「VPN - 直接ダイヤルの代わりに sslvpn.od.eng.kansai-u.ac.jp へ」接続がなくなります。

6. リモートデスクトップ利用手順

関西大学 ODECS システムには、自宅などのリモート環境から OD 教室のパソコンを利用することができるリモートデスクトップ機能が用意されています。
OD 教室の全パソコンに対してリモートデスクトップが可能になっています。

リモートデスクトップは ODECS システムが利用できる方が対象となります。

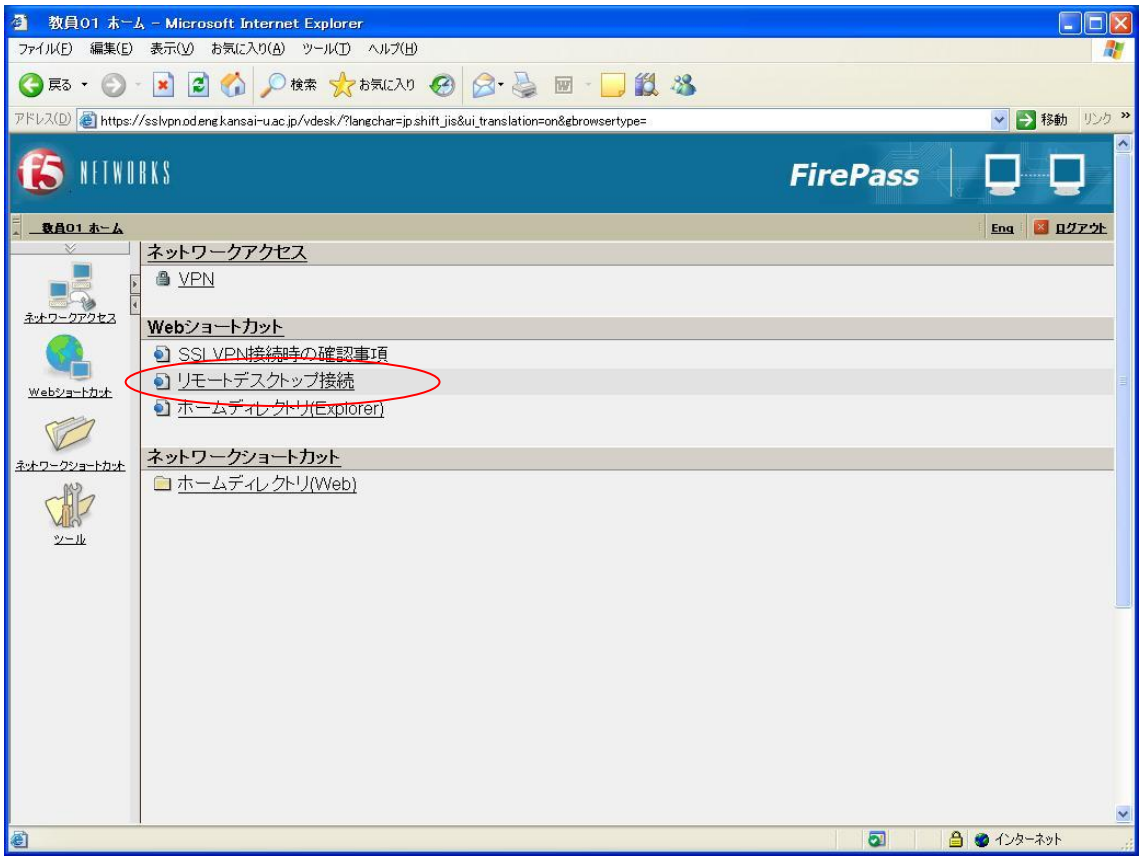
セキュリティの観点から、リモートデスクトップは前述の SSLVPN 接続を行ってからしか利用できません。
ODECS システムのリモートデスクトップでは、リモートデスクトップを行いたいパソコンを選ぶ画面が表示されます。
パソコンを選び、ユーザ ID とパスワードを入力するとリモートデスクトップが開始されます。

本章では、以下のリモートデスクトップ機能の利用手順について説明します。

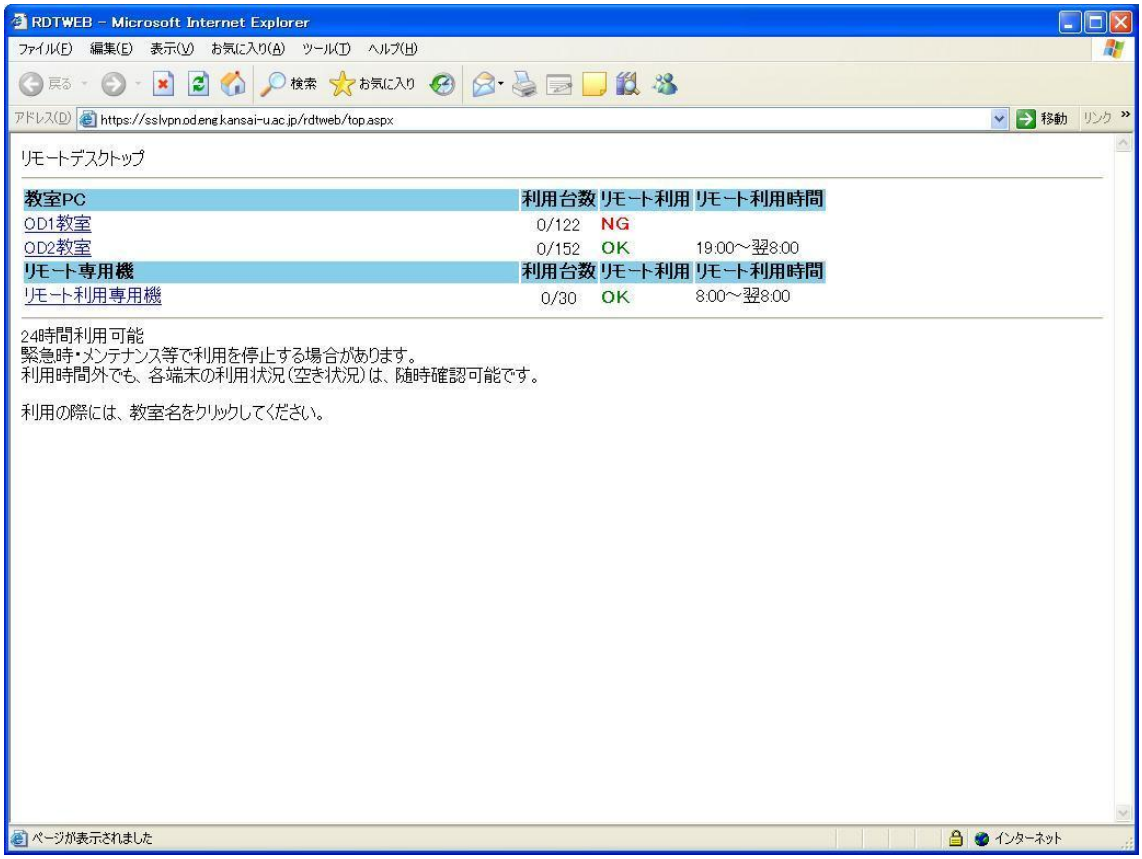
6.1　リモートデスクトップ接続
6.2　教室選択
6.3　利用パソコン選択
6.4　リモートデスクトップの開始と終了

6.1. リモートディスクトップ接続

① 「**5. SSLVPN 接続手順**」に従って SSLVPN 接続を行います。表示された SSLVPN ポータルサイトにある「Web ショートカット」から「リモートデスクトップ接続」をクリックします。



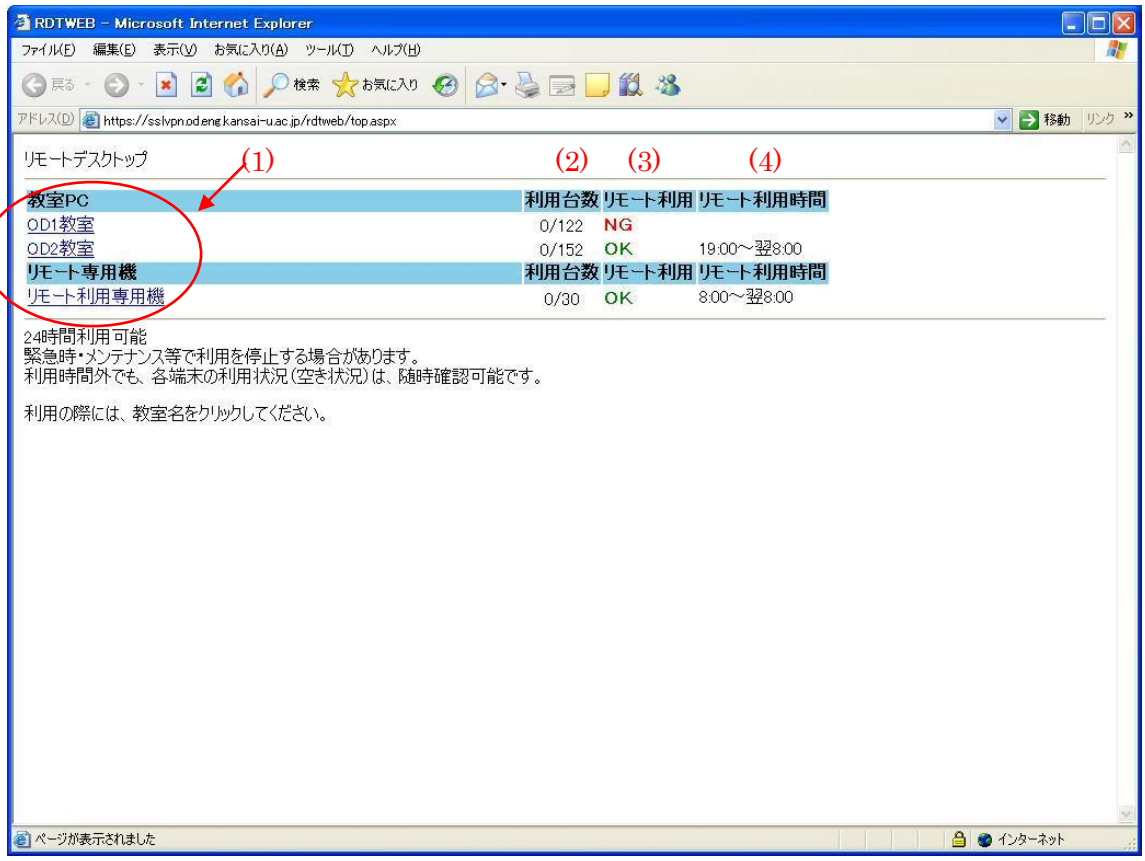
② 「リモートデスクトップ　トップメニュー」が表示されます。



6.2. 教室選択

① 「リモートデスクトップ　トップメニュー」からリモート利用可能な教室のリンクを選択します。

利用時間外でも、各端末の利用状況（空き状況）は、随時確認可能です。



表示されている情報の説明

(1) 教室リンク：　このリンクで教室を選択します。

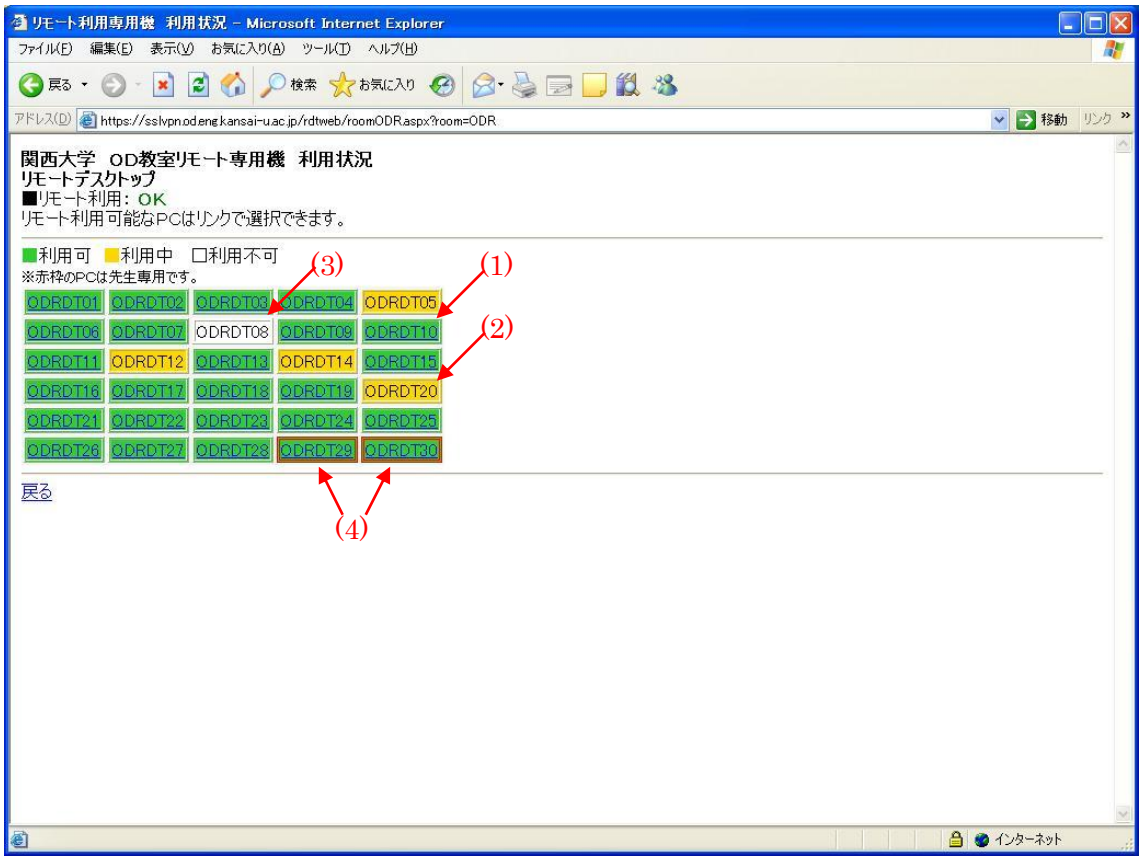
(2) 利用台数：　現在の使用状況です。
前の数値が利用台数、後ろの数値が総台数です。

(3) リモート利用：　リモートデスクトップサービス状態が表示されます。
前の数値が空き台数、後ろの数値が総台数です。

(4) リモート利用可能：　リモートデスクトップ接続が可能な時間です。
ここに記述された範囲でリモートデスクトップ接続を利用可能です。

6.3. 利用パソコン選択

① 教室利用状況画面から利用可能なパソコンのリンクを選択します。
赤枠の PC は先生専用機です。SSLVPN のログオンアカウントが先生に限り使用（接続）することができます。



表示されている情報の説明

(1) 緑色の PC： 利用可能です。
前の数値が利用台数、後ろの数値が総台数です。

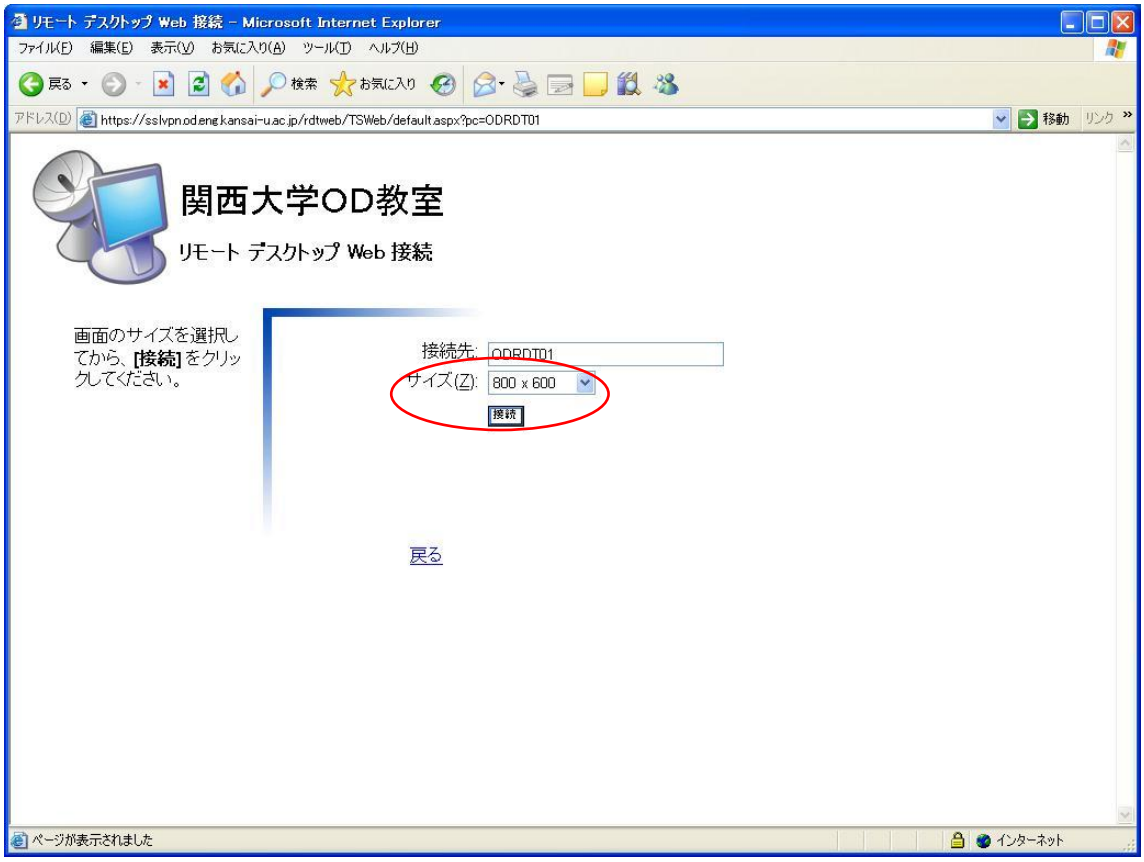
(2) 黄色の PC： 利用中です。（ログオンされています）

(3) 色なしの PC： 利用不可です。
ここに記述された範囲でリモートデスクトップ接続を利用可能です。

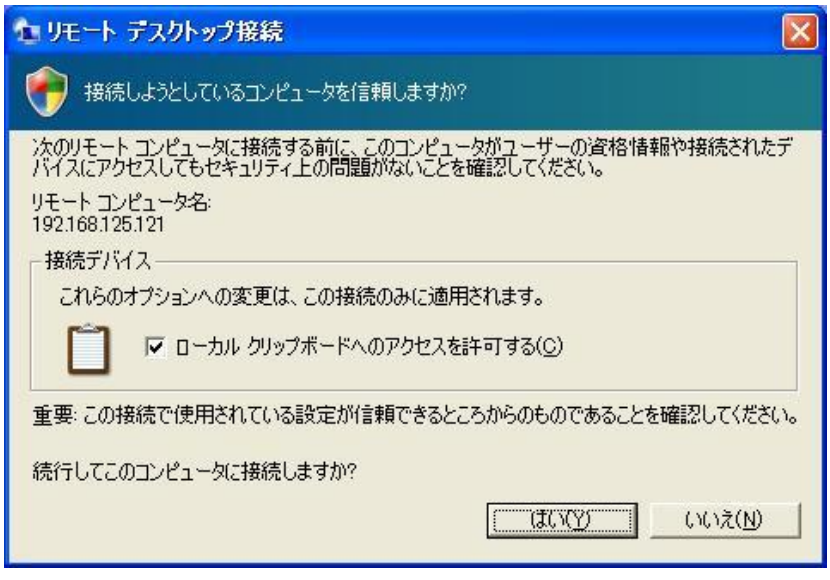
(4) 赤枠の PC： 先生専用機です。
SSLVPN のログオンが先生に限り使用（接続）することができます。

6.4. リモートディスクトップの開始と終了

① リモートデスクトップクライアントの画面サイズを選択して、「接続」ボタンをクリックします。



② リモートデスクトップ接続ダイアログのデバイス（リソース）にチェックを入れて、「はい」ボタンをクリックします。（Vista では「接続」ボタンとなります）



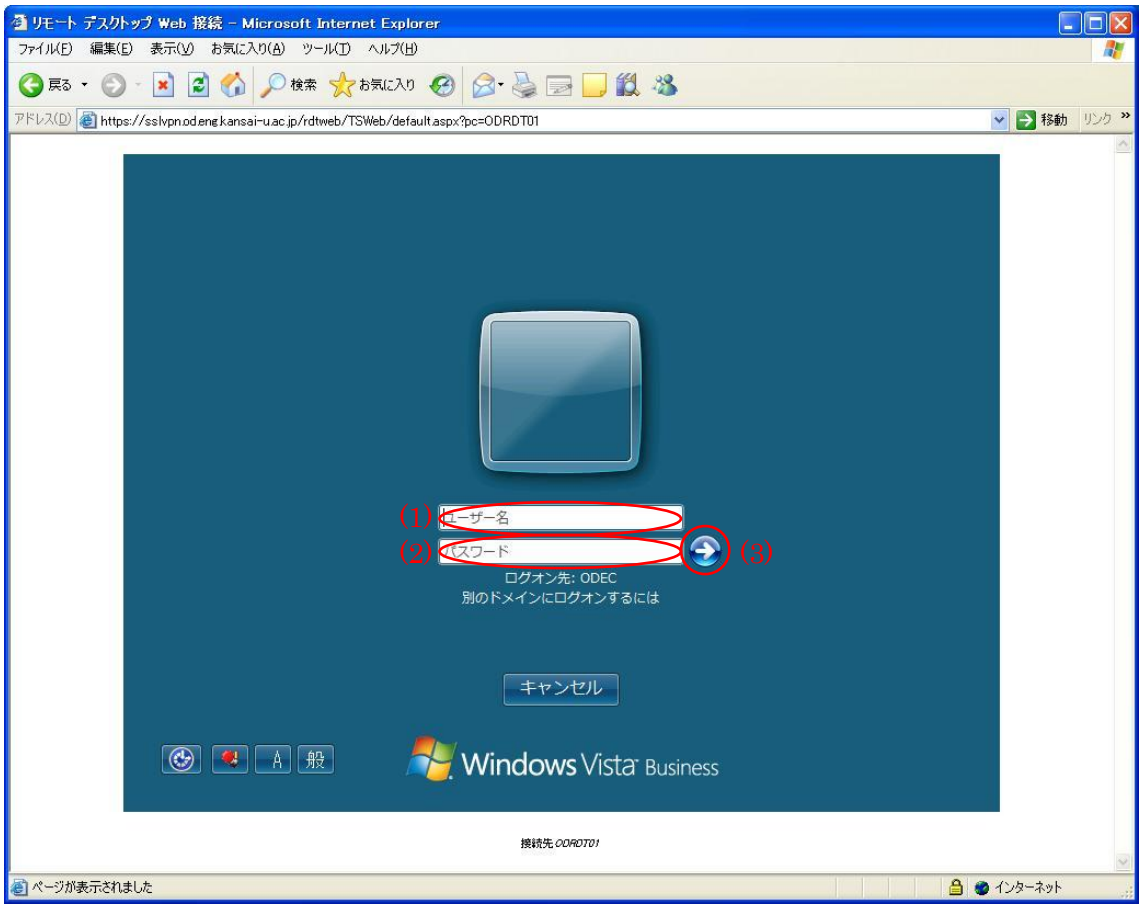
③　リモートデスクトップログオン画面が表示されます。

以下の作業を行ってください。

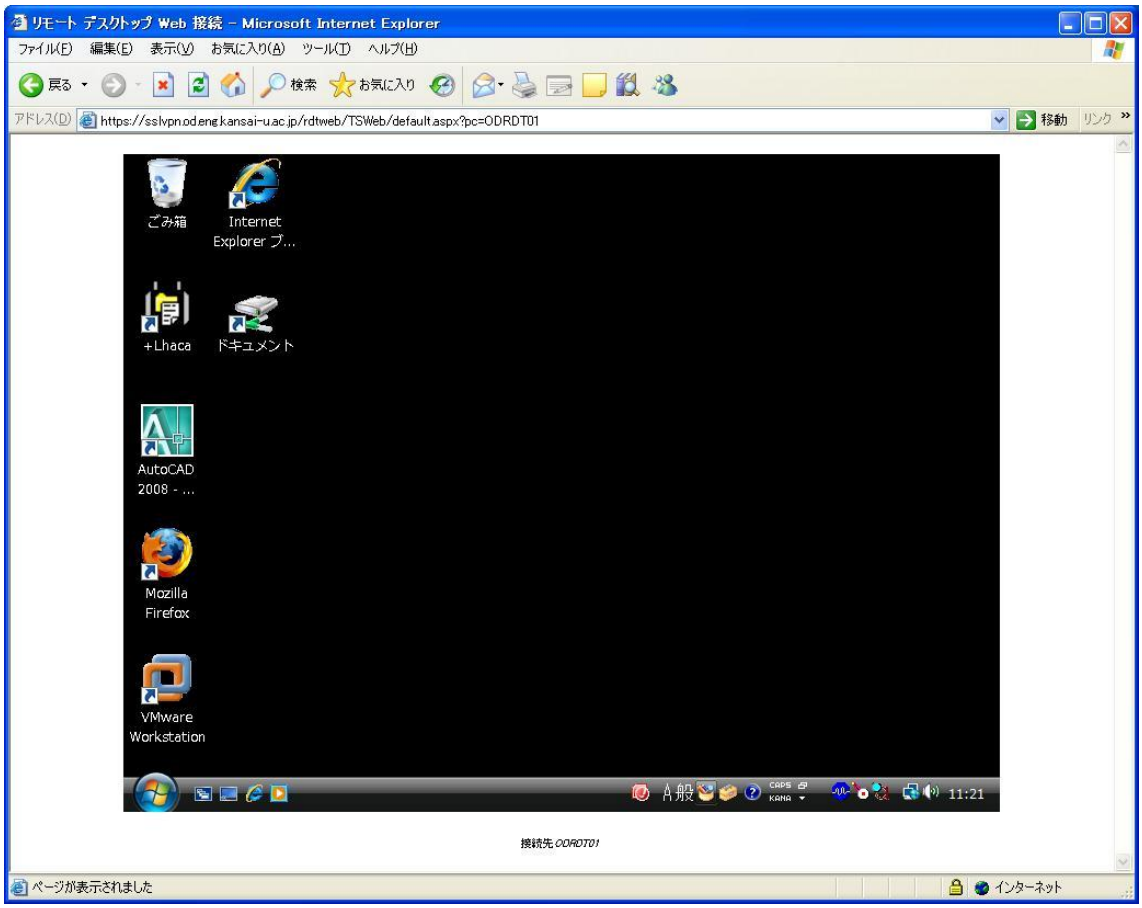
(1)　「ユーザー名」に、OD 教室で利用するユーザ名を入力してください。

(2)　「パスワード」に、上記ユーザー名のパスワードを入力してください。

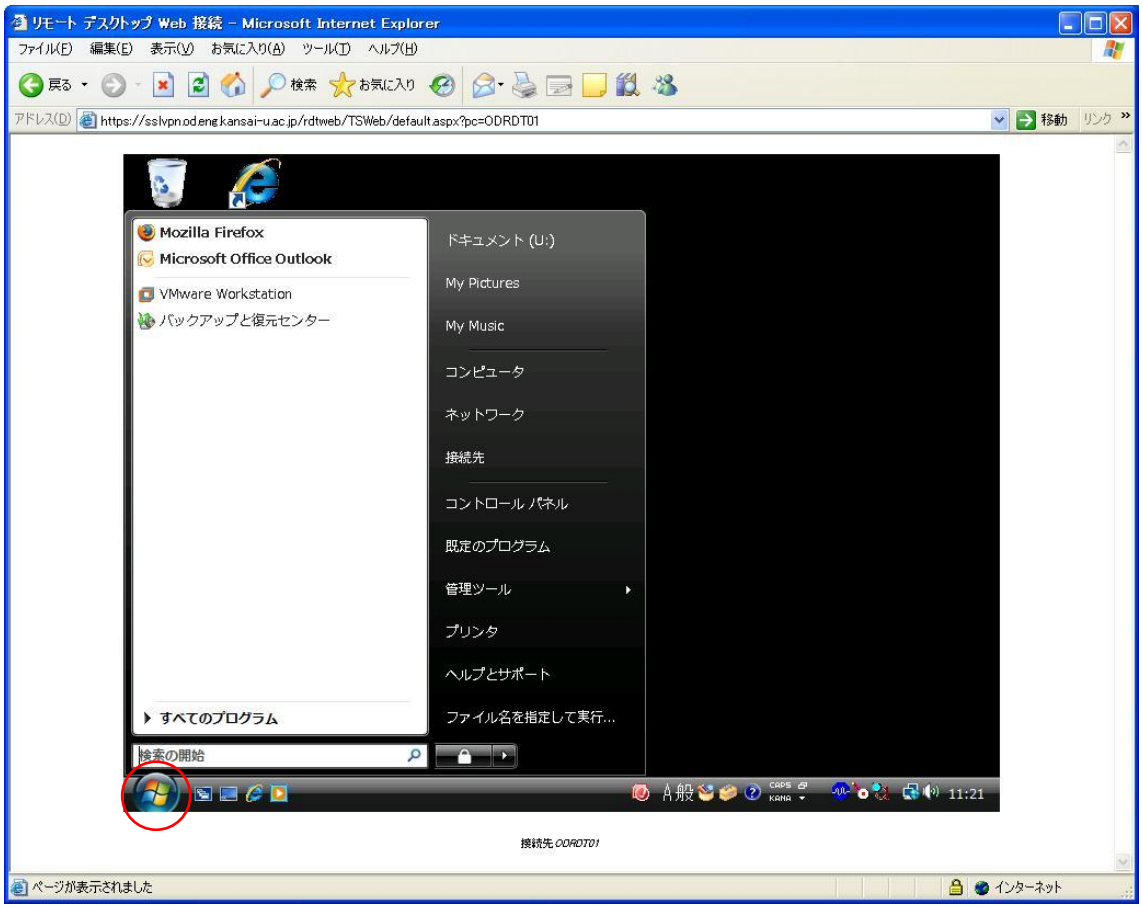
(3)　「 」ボタンをクリックして下さい。



④　ログオン認証に成功するとリモートデスクトップが開始されます。
リモートデスクトップ接続をしている状態では、ODECS システムで利用できるすべての作業が可能です。



⑤　リモートデスクトップ接続を終了する際は、かならずログオフをしてください。
リモートデスクトップを行っている Window の終了ボタンを利用した終了では問題が発生する場合があります。（Windows システム自体の仕様となっています）



以上で、リモートデスクトップの利用手順は終了です。

7. パスワード変更手順

7.1. パスワード変更

ODEC システムにログインするためのパスワードを変更することが可能です。
本人のパスワードのみ変更が可能です。

パスワード変更のためには、変更前のパスワードを入力する必要があります。
パスワードを忘れてしまった場合は、パスワード初期化を行う必要があります。

自分のパスワードを忘れてしまった場合は、ＩＴセンター４階 利用者相談コーナーに学生証を持参し、パスワードの再発行を依頼します。１時間以内に再発行したパスワードがＯＤ教室で使用できるようになります。 授業開始時にパスワードを忘れた場合は、先生に申告し、パスワードの初期化を依頼してください。

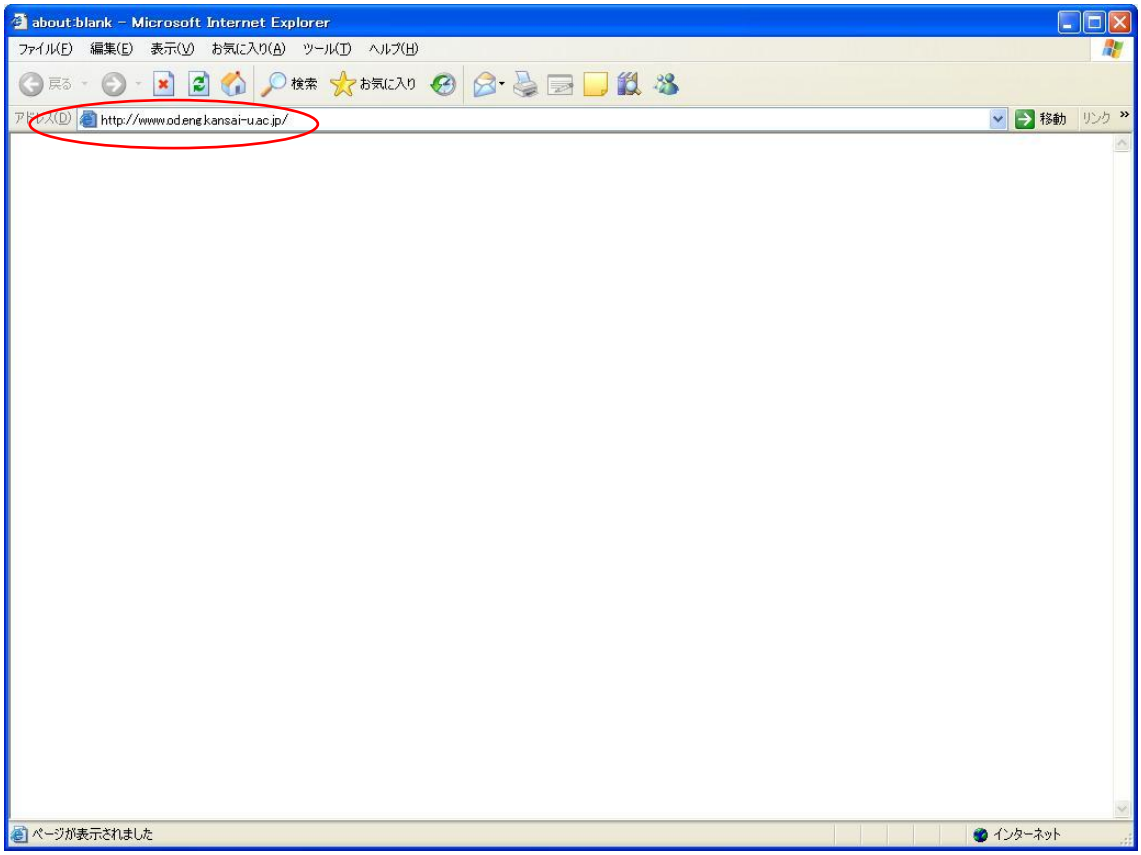
7.1.1. パスワード変更手順

パスワード変更を行う場合、まず「OD 教室トップページ」にアクセスします。

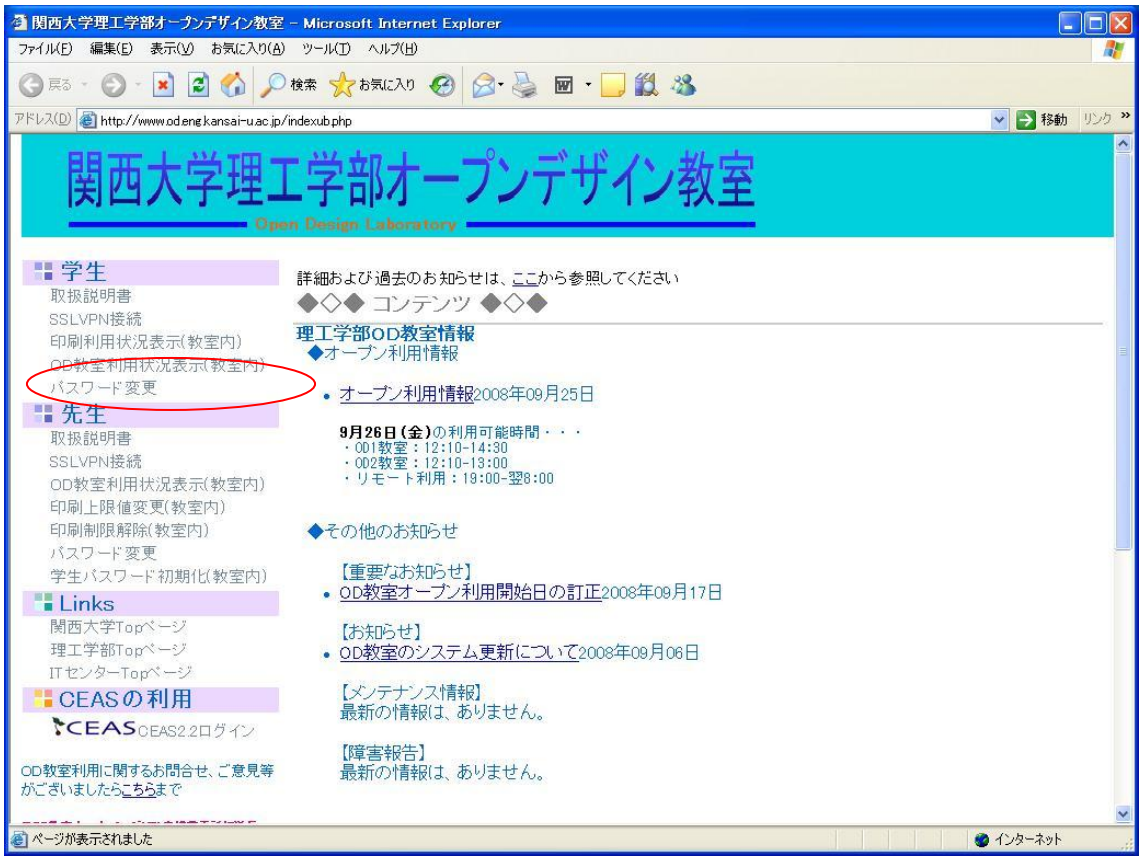
「OD 教室トップページ」へのアクセスは以下のようになります。

① 普段ご使用になられている Internet Explorer または Mozilla Firefox などの WEB ブラウザを起動します。(以降の説明は Internet Explorer を使用した場合のものです。)

② Internet Explorer のアドレス欄に「OD 教室トップページ」の URL を入力し、Enter キーを押下または Internet Explorer の「移動」ボタンをクリックします。
OD 教室トップページの URL：
http://www.od.eng.kansai-u.ac.jp/



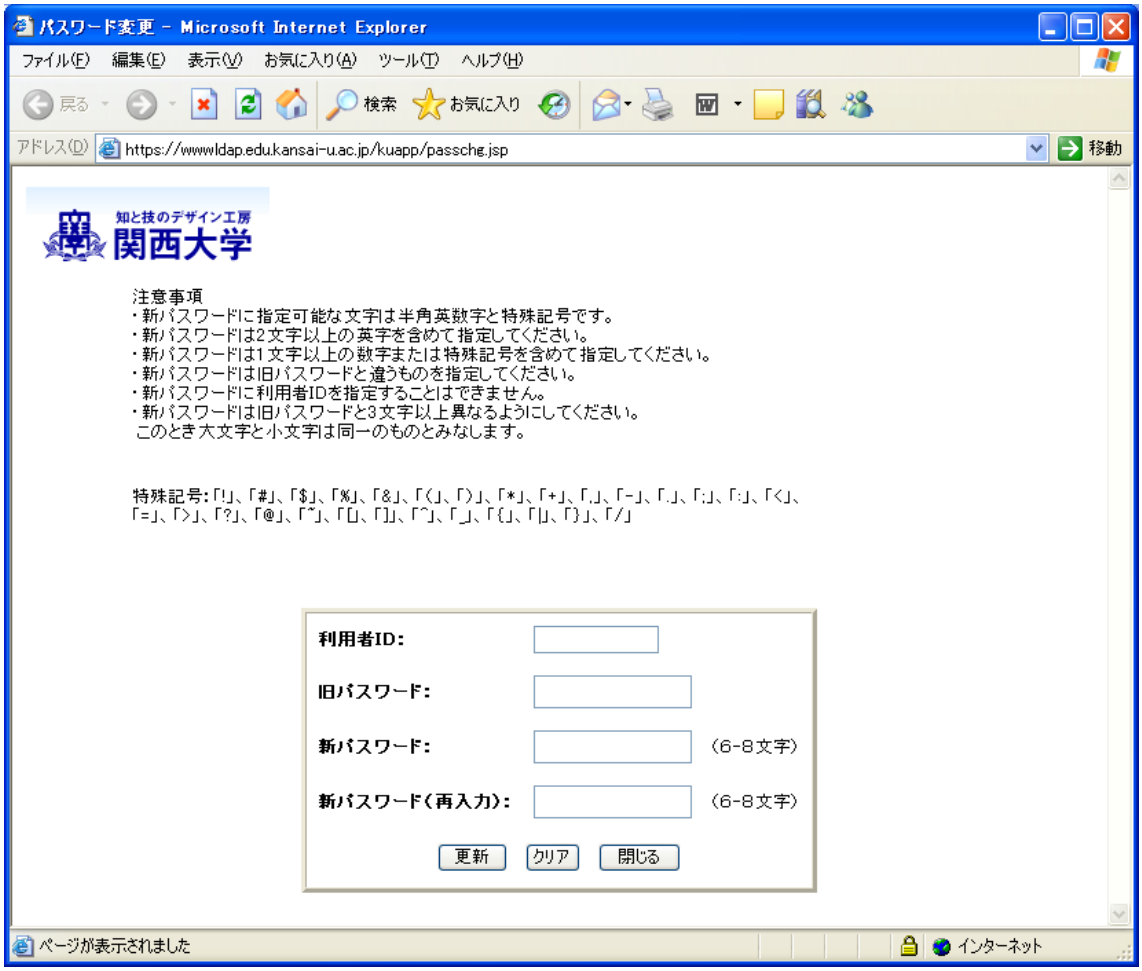
③　表示されるトップページの左にある「学生」から「パスワード変更」をクリックします。



④　「パスワード変更」ページが表示されます。

⑤　パスワードを変更する利用者ＩＤ、現在のパスワード（旧パスワード）、変更したいパスワード（新パスワード、新パスワード（確認））を入力し、変更ボタンをクリックしてください。

※全項目入力必須です。



⑥　パスワード変更終了画面が表示されたら、パスワードの変更は完了です。
１時間以内にＯＤ教室パソコンのパスワードが変わります。

以上